

アメリカ研究旅行日記 (1992年 8 月)

A Diary of Research Trip in the United States, August 1992

竹 森 一 正*

Kazumasa TAKEMORI

私は、1992年 8 月にアメリカ会計学会 (AAA) 第76回年次大会参加、カリフォルニア大学バークレイ校図書館、合衆国議会図書館および合衆国会計検査院図書館調査のため、カリフォルニア州およびワシントンDCにおいて19日間の研究旅行を行った。費用は、旅行社 (JSTナゴヤ) 支払分 ¥260,000、宿泊費 ¥185,614 (\$ 1,420.70)、食費 ¥15,993 (\$ 122.41)、陸上交通費 ¥33,269 (\$ 215.15 + ¥5,160)、書籍等研究資料購入 ¥44,528 (\$ 340.82)、その他 ¥66,492 (\$ 108.46 + AAA参加費 \$ 249.00 + 旅行保険 ¥19,560 + ¥230)、合計 ¥605,896 であった (¥ \$ 換算は ¥130.65 / \$ とし、¥ 1 未満を四捨五入した)。

以下に、私自身の備忘メモとして、研究旅行日記を記す。

第 I 部 アメリカ会計学会報告および日記

7月31日

前日まで大学で期末試験の監督があったため、忙しい準備である。マルエツで5分間DPEを利用してパスポート紛失用のポートレートを作成する (住民票は作成済み)。11:30に家を

出る。妻とゆきえがバス停まで見送ってくれる。今回はUA828の16:30まで時間の余裕がないのでナリタエクスプレスを利用せざるをえないと、保土ヶ谷駅でグリーン席を含めての問い合わせをすると、3時台まで満席とのこと慌てる。12:48の千葉行きで船橋で下車、船橋から京成線の特急に乗り継ぎで何とか成田空港には14:59到着。きわどいセーフである。余裕をもって空港に着かねばならないことを痛感する。住友銀行の両替でわずか ¥65,325分の \$ 500.00 をもって質素に出国である。16:10に機内に入れたが、離陸したのは18:05である。いいかげんなものである。隣は世界中を工場の指導で飛び回っているという浅野さんという技術コンサルタント、その隣はアメリカに移住するインド人。水平飛行に移って、本学の佐治孝夫助教授に勧められた Mileage Plus Card を申し込む。22:00 頃に寝て 2:00 に眼が覚める。日本時間 3:00 (アメリカ西部時間 11:00) に着陸、席が中の方なので着陸前の景色や空港の上空風景を楽しむ暇がない。ゴツンとタイヤが滑走路に着地した音が聞こえたら逆噴射音、そして停止である。

夏休み入りのため、サンフランシスコ国際空港 (SFO) の荷物引き取りと入国審査は大混雑である。係官によって行列の流れ方が全然違う。丁寧に尋ねるため進まない行列、何も聞かずにドンドン、スタンプを押して通してしまうため

*経営情報学科—会計学

Department of Business Administration and
Information Science—Accounting

ゆっくりと歩くスピード位で流れる行列、私の係官は後者のタイプで「Business or Pleasure?」と聞きながらスタンプを押している。おかげで、混んでいる割には1:30の行列で済んだ。

このSFOは、昨年、本学の白木俊彦助教授と待ち合わせのためウロウロしただけあって、地理が分かっていて安心である。コーヒーショップで昼食と思ったが、ランチが\$15とある。高すぎるので、隣のアイスクリーム屋でコーヒー、ヨーグルト、ドーナッツで済ましてしまう。サンフランシスコ市内へは路線バスで入ることにする。samTranバスに乗車してサンフランシスコ・バスターミナルまで1:20、\$85である。バスを待っている間、アラスカに釣りにいくという関西弁のグループが市内への道を尋ねたので、雲助タクシーのことを注意して一緒に乗せてしまった。入国初日でボラレたら不愉快なものである。バスターミナルから歩いてMontgomery BART駅へ、道路上のエレベータから駅へ入りBerkeley BART駅へ。

Berkeley BART駅からは、登り坂のDurant Avenueを上っていく。Hotel Durantがどこにあるかは知らないが、紹介者の大雄令純教授（南山大学）によれば、UCB（University of California, Berkeley）に短期滞在する教授達の宿舎として有名なホテルらしいから、そのうち着くだろうと、結局30分歩いて到着。チェックイン後、すぐに外へ出て手ごろな店に入り、スタミナが欲しいのでSteak Sandwichを注文すると、これが20cmほどの長さの厚いステーキをサラダで包みパンで挟んだもの。やっとの思いで食べてホテルへ帰る。無事到着を祝ってビールを飲もうと、ツマミのつもりで注文したTachos Small Sizeが30cm程の皿に山盛りである。もうこれは食べられず、ペーパーナプキンに包んで部屋へ持ち帰った。結局これが、1週間の間のツマミやおやつになった。

ホテルの廊下と部屋（422号室）は何ともいえない臭気である。特殊な香水かとも思ったが、違うらしい。ホテルを替えるにもこの近辺のことは全く分からないし、UCB訪問の教授達は皆

滞在しているのだからと、我慢しようと思う。

TVをつけると、ニューヨークJFK空港での着陸失敗事故、ネパールでの墜落、南京での墜落と飛行機事故ニュースばかりである。早速、自宅に国際電話を入れる。少々の世間話をしてホテル手数料込みでわずか\$75であった。

ホテルからの国際電話は、まず室内の電話の国際通話用の番号（8または9）を押して、NTT番号が0568-51-1111であれば、81-568-1111とダイアルする。このホテルでは81の前にATT回線呼出の番号を指示に従ってダイアルする。

体内時計の順応のため、22:00までわざと寝ずにTVでCNN放送を見る。バス、トイレを開けておくと、隣室からか、猛烈かつ新鮮な臭気が換気口から入ってくる。ホテルの構造の問題なのだがまんせざるをえない。枕元にペンライトを置き寝る。すぐに寝つく。

8月1日

4:57起床。風呂に入り、出国前にできなかったパジャマの洗濯をし、バッグを整理する。バッグ整理は1時間を要することが分かった。枕に\$1を置き、1階のレストランへ降りる。7:03。カウンターのUSA Todayをもらい、complimentary continental breakfastで朝食。前の丸いテーブルには、さも大学の先生らしい男性とその家族らしい日本人が4人座る。近所を散歩するが眠くてしかたないので、今日は、温泉へ行き、帰りにサンフランシスコ市内の書店巡りをしようと計画変更する。8:18にホテルを出るが、寒い。道路はまったく人影がない。Berkeley駅からBARTでPowelで下車し、駅の裏にあることになっているグレイハウンド・バス・ターミナルの場所に行くと大きな更地しかない。この午前9時前という時間帯はサンフランシスコ市内では危険時間帯である。表通りのMarket Streetにも裏通りにもホームレスの群れである。皆が一斉に手を出す。あるブティックの前では5人のホームレスに進路を塞がれ、「Ten dollar, sir.」と言われる。そこでグレ

イハウンド・バス・ターミナルの移転先探しは中止して、Powel停留所からMUNIのトロリーバスでAMTRAKの支線であるCaltrain駅へ行く。今日からMUNIは\$1、しかも、ケーブルカーは、\$3の新運賃であった。\$1を出してTransfer（最初の乗車から2時間内の乗り放題切符）をもらう。ところが、Caltrain駅の路線案内図はどれも要領をえないし、駅の売店の観光ガイドブックには温泉（HotSpring/SPA/Coor）の記載はない。そこで、温泉行は中止して白木助教授の地図を頼りに書店探しに変更した。また、MUNIのトロリーバスでPowelまで戻ったが、商店はどこも10時開店のようで通りはホームレスだらけである。マクドナルドに入って時間をつぶすことにする。10時を過ぎた頃に店を出ようと席を立つと向かいに座っていた破れズボンの若い黒人も席を立つ。私が走って階段を走ると彼も走ってくる。「ヤバイ」と心に叫んで通りに出てまた走った。交差点を過ぎて振り返ると彼は追ってきてはいなかったが、仲間との連携プレーもあることと思い、しばらくはジグザクに早足で歩いては止まって振り返り、またジグザクに早足で歩いては止まって振り返り、を繰り返した。どうも、完全に逃れたようなのでMUNIのバス停で位置を確認していたら、横から太った女の黒人のホームレスが手を出して、「Dollar, sir.」である。目に入ったデパートNordstromに入ってみるが、ここの本屋は小さく、とても専門書を扱うような規模ではない。めざす書店はないし、通りはホームレスだらけでいやになってしまった。書店探しも諦め、UCBからWashington, D.C.への移動のルート確認のため、BART終点のDaly City駅とSFO行きの路線バス停留所を見に行くことにする。TransferでMUNIの地下鉄線に乗車する。この線は、Embarcadero駅を始発として、Market Streetの道路下とTwin Peaks山の下を地下鉄線で抜けて、West Port駅で地上に出た後に3方面の路線電車となる方式である。乗客はBARTと較べて少し階層が低そうな感じであるが、皆、質素でまじめそうな感じである。この

MUNIでBalboa BART駅まで行き、Daly City BART駅まで行く。Daly City BART駅は地上駅で、2階がホームで1階が改札口、売店・コーヒースタンド、マイカーとタクシーの車寄せ、およびバス・ターミナルとなっている典型的な郊外の通勤線の駅の感じである。駅の横にはBART PARK BLDGがあるのでサンフランシスコの南方から通勤する人々には便利な駅である。SFO行きのバスは路線番号3B、北行と南行が同じ停留所から発車するので要注意である。Daly City BART駅発3B南行6:58, 7:21, 7:45, 8:15の発車時間、料金\$1、乗車時間0:38, Berkeley—Daly City間は料金\$2.05、乗車時間0:20を確認する。ホテルへ戻って14:05、眠くなって寝る14:30—19:03。

目覚めてからお粥を作ることにする。米を一掴み登山用の小型ナベに入れ、水で軽く研ぎ、水を満水で30分浸す。湯沸かし用のヒーターをナベに入れ沸騰させ、ベッドの毛布に包み30分置く。この間風呂に入る。風呂から出てお粥ができていなければ再度ヒーターで沸騰させて毛布に包む。頃合を見計らって毛布から出し、フリカケとウメボシをのせればできあがりである。

8月2日

起床6:50、朝食7:15—8:30、遠くの方から北欧の教授かと思っていた背の高い品の良い男性が実は日本人と分かる。東京工業大学井関孝嘉教授であった。Lawrence Berkeley Laboratoryでの無機材料工学の研究で1月間のUCB滞在とのことである。食事後UCBの構内へ入るが、日曜日のため午後から出直すことにする。ホテルの部屋へ戻りTV9:00—11:30。ASUC Store（生協）にて大雄教授に依頼されていたUCB学生が使用する会計学の副読本と家族用のUCB名入りのおみやげを探す。1, 2年生向けの本を3冊購入\$78.56。Bancroft Avenueの道路沿いのStudent Unionビル前で学生相手の軽食屋台にてジュースとマフィンを求め、Student Unionビルの階段に腰掛けて昼食を取

る。白人, 黒人, 東洋人と学生だらけではあるが, 皆に知らん顔をされると職業柄か返って違和感を感じてしまう。この間11:50—13:30。

USB図書館本館にてGLADIS検索13:30—15:00。昨年の研究ノートを今回の旅行に持ってこなかったことに気付くが遅い。仕方なく重複覚悟で検索である。ウォーミングアップのつもりで, 思いつくまま人名キーで検索する。研究開発費効果測定公式で気になっているPacificoとOlsenを検索する。しかし, Pacificoは8名収録されてはいるが, 研究開発や工業経営関係の業績を持つ者はいない, また, Olsenは「retrieved no items」である。出発前ギリギリまで検索をしていた雑誌論文検索ソフトのELDBもFALD (日本書籍貿易扱い) もこの兩人については結果が出なかった。

このGLADISの検索機を操作しながら, つくづく, カリフォルニア大学図書館の開放性に感銘を受けた。部外者にも自由に出入りさせ, 自由に検索させ, 閲覧させ, 学生と同一レートでコピーさせるということなど, わが国大学ではまったく考えられない。1985年にはワシントン大学へ行ったが, 部外者には検索機もコピーも操作させてはくれなかった。あの時, このUCBなみの自由さがあれば私の研究はもう少し早く資料収集の点から進歩があったはずである。UCBの図書館機能から較べれば, わが国の図書館はどれも微々たるものに過ぎないのではなかろうか。ふと見上げた天井と壁 (General Information Desk Room, Bancroft Library) がこれまた違う, 王宮舞踏会でも開けそうな美しい模様と絵とシャンデリアである。さすがノーベル賞学者を出す所はソフトもハードも構えが違うなあと, 半分感謝, 半分どうしようもない思いにとりつかれてしまった。3時を過ぎると眠くてしょうがない, ホテルへ戻って昼寝である。15:30—19:00。目覚めてから韓国人経営のスーパーで夕食買い出し。夕食はウメボシとフリカケとお粥とTachosの残り。風呂の後日本へ暑中見舞いハガキ17人分を書く。22:06—0:10。昨年の反省点を思い出しつつ小稿「ア

メリカ研究旅行日記 (1991年 8月)」(中部大学経営情報学部論集1992年 1月)を読む。枕元にペンライトを置き就寝, 0:45。

8月3日

起床6:45, 朝食7:15—8:00, 図書館本館CISD024機にて検索, 9:15—12:21。検索目標を国際会計教育会議報告資料およびLife-Cycle Costing研究資料とする。UCBの検索機にはプリンターが付いていないため, 結果を手書きで記録せねばならず, 作業時間には制約がある。Ford ReportとCarnegie Reportを検索しようとしたが, これは通称であるらしく出てこない。

FI TI higher education (Find by Title, "higher education." higher educationのタイトルで発見せよ, の検索コマンド) で検索してみるとretrieved 393 itemsである。ここから絞り込みの機能はないようなので, 一件一件見ていかねばならない。リターン, リターンと画面送りをしながら, ついに167件目でFord Reportを発見した。(*?UCB92-1)

FI PN Gordon (Find by Personal Name, "Gordon." Gordonの個人名で発見せよ, の検索コマンド) でretrieved 950 name entriesである。これでは役に立たないので新たにGordon, Jで検索すると, retrieved 82 name entriesである。順次表示させて42件目を表示すると, retrieved 15 recordsである。10件目が例のFord Reportであるが, 他はすべて経済学関係の文献であった (メモ省略)。(*?UCB92-2)

FI PN Howell, Jでretrieved 62 name entriesである。順次表示させて22番目のHowell, Jを表示させると, 3 recordsである。10件目が例のFord Reportであるが, 他はすべて経済学関係の文献であった。(*?LCB92-3)

FI TI higher educationの中でCarnegie Reportは見落としたようだが, 今更393項目を探し直しの元気がない。

FI TI education of American Businessmanの検索ではretrieved no itemsである。

(*?UCB92-4)。

FI TI Piersonの検索ではretrieved 96 itemsで多すぎる。(*?UCB92-5)

FI TI education of Americanではretrieved 11 itemsと出たため、これを見ることにする。今回は運がよく、1件目で成功したようである。特に、出版社名の次にCarnegie Series in American Educationとあるので良いようである。他の10項目はいずれもPierson教授は関係なかった。(*?UCB92-6)

これらFord ReportとCarnegie Reportは共に経営経済専門図書館であるStephens Hallに収納されていることも分かり、嬉しくなる。このCarnegie Series in American Educationが一体どのようなもので、現在も活動中であるのかは非常に興味を引かれる所であるが、今回は解明できなかった。ちなみにCarnegieでも試みる。

FI CN Carnegieではretrieved 338 itemsである。(*?UCB92-7)

FI CN Accounting Historians Journalではretrieved 1 itemである。これは、Staubus教授がActivity-Based Costingについての論文を掲載している貴重な雑誌であるため、時間の余裕があれば閲覧する予定のものである。(*?UCB92-8)

FI TI life cycle costの検索ではretrieved 14 itemsである。(*?UCB92-9)

FI TI design to costの検索ではretrieved 3 itemsである。(*?UCB92-10)

FI PN Rueggの検索ではretrieved 35 namesである。24番目のRueggで絞ると9項目が検索される。(*?UCB92-11)

FI PN Altizerの検索ではretrieved 3 namesがされたが、Altizer, H. はない。(*?UCB92-12)

FI TI defenseの検索ではretrieved 500 moreである。これを順次表示されて行くと、2番目にhandbookが出てくる。(*?UCB92-13)

FI PN Heyelの検索ではretrieved 3 namesである。2番目のHeyelで絞ると18項目が検索される。(*?UCB92-14)

昼はASUCのコンピュータ部でLotus Sym-

phonyを\$149.00, Easy (Wordstarの学生版)を\$19.99で購入、この安さは当然、アカデミック・ディスカウント価格であり、私が教授であることを証明せねばならない。中部大学の身分証明書を見せるが、残念なことに日本語であるため、一語一語翻訳して納得させた。最後にID Numberを教えろという。しかし、そんなものは初耳であり、苦し紛れに身分証明書に打ってあるナンバリングのナンバー127番を示した所、おかしい顔をしたが売ってくれた。教授売上帳の他の人の行には10桁程の数字やらアルファベットがハイフンまじりで記入してあった。音に聞くアメリカの大学のアカデミック・ディスカウントを体験できて感激である。ともあれ、外部の教員にまでも開放的なカリフォルニア大学に尊敬の念を抱く。ルンルンとBancroft Avenueを横ぎって昼食の店を探す。Italian Restaurantのピラを配っている女の子に「店の場所を」と尋ねて歩く。大体、こんな店は遠くて不便で、しかし入ってみれば結構いける所が多い。案の定、ボトルジュース付きで、サラダと山盛りのスパゲッティで\$5.06だった。ホテルへ寄ってASUCの買い物を置き、UCBへ。

Stephens Hallは一年振りである。13:40—15:30。すぐに2階へ行き、Ford ReportとCarnegie Reportを探す。何とこの両書は同じ棚の同じ段に20cm位の間隔で並んでいる。またも感激である。この2冊はわが国ではどうしても発見できなかったものである。Ford Reportの方はかなり使われているらしく、背表紙が破損し、それを白い紙で覆って手書きでGORDONと書いてある。Carnegie Reportは完全に原型のままである。早速近くの机で必要箇所をメモしてコピーする。両書共に格調高く内容が深い。いつの時代にも教育を真剣に考えている人がいるものだと思う。

FI PN Fabryckyでretrieved 2 itemsである。(*?UCB92-15)

FI PN Blanchardでretrieved 213 itemsである。(*?UCB92-16)

図書番号が分かったので、Fabrycky=BlanchardのLCCをもう一度みよう(昨年入庫したてを発見した)と棚を探すがない、コピー後の置き棚とカートを見るがない、本の形と厚さは分かっているのに、どんな人が閲覧しているのか、話でもしようとして10人程の閲覧者全員の机を見るが誰も見ていない。司書に尋ねたが、未整理棚にあるという。しかし、ない。不思議な話で、行方不明である。

James B. Quinnの研究開発費の効果測定公式は、自身の他の文献からの引用という複雑な出典であるので、元の文献を参照しようと、Carl Heyel ed., *Handbook of Industrial Research Management*, 1959を検索するがない。ないものはないのがUCBのすごい所であるから、文献案内の司書(Reference Librarian)に相談する。私など一目でよそ者とわかるのに、ここでも実に親切である。「Wait」と言ったと思ったら、ムーとかフーとか言いながら端末を叩いている。ついに見つけてくれて、メモ用紙にパパと書名と図書番号を書き、デスクで頼めという。デスクのデブリした黒人女性司書はこのメモをチラリと見て「Come again, Wednesday afternoon.」と一言である。私もそろそろ時差が効き始めて眠いのでそろそろ退出と、「Thank you, see you on Wednesday afternoon.」と言ってホテルへ戻った。15:52—18:45の間、快適な熟睡である。

アメリカ到着以来、青物が不足しているためだろうか、胸焼けがするようになってきた。今日の夕食はサラダにしようと、Berkeley BART駅周辺へ行く。お粥を食べる時のフォークがないのでBerkeley Public Libraryの隣にあったJC Pennyでハシかスプーンを買おうとしたが、服屋に改装されている。ではマクドナルドでもらうことにしてサラダを注文する。店員は好きなパックを指でさせというが、わが国での常識をはるかに超えた超特大サイズのため、商品とは思えず一瞬まごついてしまった。これが井関教授が言っていた「とにかくこちらのものは量がありましてねえ。」の真実かと納得した。帰る

のバスは一停留所手前で降りてブラブラ歩く。すると19:00頃にもかかわらず、ホームレスの群れである。けちって何をされてもばからしいので、手を出されたら気前よく\$1や\$10をくれる。すると、ホームレスにも様々のタイプがあるらしく、黙っているのや「Have a nice day, sir.」とか「God Bless you, sir.」とか言っただけで機嫌をとってくれるのや「It's small money.」などと言って不平をいうものもいる。

ベットの上で買ってきたLotusとEasyをながめているうちに眠くなった。21:49。

8月4日

起床6:25、朝食7:05—8:00。井関教授と緊張せずに食事できるのは嬉しい。初日に家族連れで来ていた日本人は今日は一人である。奥さんと子供が帰ってしまい、これから、あの先生は下宿を探して1年間の留学生活に入るのだろう。羨ましくもあり、物悲しい光景である。

レストランから持ってきたUSA Todayを部屋で読み、出かける。途中でASUCの文具部でシステム・ノートの横罫リフィルを\$2.17で求める。私の研究室には、目的別に各種のリフィルが揃っているのにもったいないことだ。UCBの学生はシステム手帳をあまり使わないらしく、売っているリフィルは、1993年用カレンダーとこの横罫のみである。しかも、バインダーなどわが国のディスカウント・ショップで¥1,980の値段でよく見かけるDay-Runnerのビニール装丁のものが\$40もする。中身のリフィルはザラ紙を使用したような安っぽい感じで、とても買う気になれない。

図書館本館検索機XA081機に座り検索する。9:15—11:25。本日の検索の目的は、国際会計教育会議準備、簿記学会関西西部会統一論題円卓討論(南山大学, 1993.3.27)準備。今日は、全部の機械に電源が入っていないため、後からきた人達が首を傾げながら機械の電源を入れようとするが入らない。どうも中央で制御しているらしく、正に早い者勝ちで早起きの有利を感じる。作業は次のように進めた。

FI CN OECD (Find by Corporate Name, "OECD." OECDの会社団体名で発見せよ, の検索コマンド) でretrieved 75 itemsである。順次表示させて4件をメモする。(*?UCB92-17)

FI TI elementary accounting でretrieved 8 itemsである。これらは、すべて1914—1946年の出版であり、とても簿記学会用の調査には使えないが、参考にメモする。(*?UCB92-18)

FI TI introductory accounting でretrieved 4 itemsである。これらはすべて1926—1968年の出版でありこれも簿記学会用の調査には使えないが、参考にメモする。(*?UCB92-19)

FI TI advanced accounting でretrieved 27 itemsである。これらはすべて1903—1980年の出版でありこれも簿記学会用の調査には使えないが、参考に出版年度のみをメモする。(*?UCB92-20)

serial (1949-1955) , 1956, 1963, 1960, 1961, 1918, 1932, 1917, 1979*, 1950, 1950, 1922, 1941, 1971, 1941, 1966, 1949, 1965, 1979, 1980, 1903, 1921, 1903, 1960, 1917, 1968, 1946 (*[9]'s author is Bedford)

FI TI intermediate accountingでretrieved 30 itemsである。これらはすべて1933—1985年の出版であり、これも簿記学会用の調査には使えないが、参考に出版年度のみをメモする。(*?UCB92-21)

1949, 1933, 1963, 1958, 1958, 1949, 1982, 1948, 1972, 1968, 1974, 1968, 1963, 1958, 1977, 1976, 1979, 1982, 1986, 1978, 1962, 1964, 1981, 1982, 1980, 1985, 1964, 1964, 1954

以上の文献の中で注目されるのは、有名教授の執筆であることである。例えば

[24] [26] Sydney Davidson

[22] Moyer and Mautz

[9] [17] [18] [19] [20] Charles T. Zlatkovich

[10] Glenn A. Welsch

[11] [12] [13] Walter B. Meigs, 1924-1963

[15] [16] Jerry J. Weygandt

以上の検索から教科書と著者との関係について次のような傾向が発見された。

Introductory/elementary accounting……無名教授

Introductory accounting……有名教授

Advanced accounting……有名対無名教授

比率=30%:70%

FI TI bookkeepingでretrieved 43 itemsである。これらはすべて1801—1934年（一部のみ1976年）の出版であり、これも簿記学会用の調査には使えないが、参考に出版年度のみをメモする。(*?UCB92-22)

1913, 1914, 1914, 1918, 1910, 1924, 1920, 1926, 1926, 1912, 1923, 1926, 1931, 1928, 1910, 1918, 1918, 1904, 1976, 1913, 1919, 1921, 1904, 1913, 1906, 1912, 1908, 1904, 1934, 1920, 1920, 1916, 1905, 1937, 1801, 1816, 1912, 1922, 1934, 1923, 1919, 1911, 1904

FI TI cost accountingでretrieved 104 itemsである。これらは、私の研究・教育用の興味からの検索であるが、参考に出版年度のみをメモする。(*?UCB92-23)

1947, 1956, 1940, 1954, 1949, 1921, 1925, 1931, 1954, 1954, 1953, 1948, 1984, 1957, 1971, 1964, 1962, 1972, 1967, 1982, 1977, 1987, 1991, 1967, 1967, 1967, 1983, 1969, 1974, 1977, 1986, 1961, 1972, 1967, 1961, 1950, 1950, 1971, 1970, 1916, 1957, 1935, 1978, 1929, 1952, 1952, 1927, 1973, 1960, 1976, 1990, 1955, 1951, 1951, 1934, 1987, 1913, 1936, 1965, 1966, 1982, 1980, 1926, 1986, 1986, 1984, 1942, 1947, 1924, 1952, 1981, 1951, 1990, 1924, 1962, 1962, 1971, 1924, 1976, 1969, 1979, 1933, 1948, 1925, 1946, 1962, 1952, 1977, 1967, 1922, 1987, 1975, 1984, 1979, 1984, serial (-) 1976, 1974, 1954, 1924, 1913, 1971, 1921, 1928

FI TI management accountingでretrieved 36 itemsである。これも、私の研究・教育用の興味からの検索であるが、参考に出版年度のみを

メモする。(※UCB92-24)

serial (1943-1991), serial (1919-1973),
1960, 1956, 1978, 1979, 1982, 1969, 1971,
1977, 1968, 1989, 1985, 1964, 1957, 1957,
1966, 1968, 1992, 1976, 1970, 1987, 1971,
1965, 1970, 1975, 1970, 1950, 1984, 1980,
1979, 1983, 1960, 1956, 1970, 1936

ここでの著者の特徴は有名教授が多いことが目につく。

FI TI auditingでretrieved 105 itemsである。わが国における監査論の専門書・教科書と比較すれば圧倒的な量である。会計風土の違いを改めて認識する。メモは省略。(※UCB92-25)

昼食はまたも Bancroft Avenue 沿いの屋台である。日本語で「武蔵」と書いてある店へ行く。何とオニギリを売っている。\$ 1 でサケニギリを買い、別のパキスタン人の屋台で桃ジュースを ¥ 1.13 で買い、ASUC 食堂 Golden Bear 前の池縁に座って食べる。隣に座った日本人は中央大学法学部3年生新井君だそう。サンフランシスコのユースホステルにオーストラリア人の英語の先生と相部屋で宿泊中とのことである。英会話に慣れたいので家族の反対を押し切ってきたのだそうである。次の目的地はボストンとシアトルで、ワシントン大学へ行く予定だそうである。学部で3年生で単身でアメリカ旅行できるなんていい時代だなと思った。大学巡りをするなんてすばらしい着眼である。私の学生時代はそんなことは不可能だったからだ。それにしても、さすがは中央大学生である。私の身分が大学教授と分かった途端に、それなりの態度で接する。彼の忠告である、ゴールデン・ゲート・ブリッジの公園には日本でも有名な宗教団体が募金や集会の勧誘をしていますよ、とのことだった。彼はこのことで非常に憤慨している。私の予定も話し、互いの無事帰国を祈った。

午後は Stephens Hall である。12:20—16:10。Ford Report と Carnegie Report を2階北側の閲覧机で読む。コピーをとっても後で読むのが大変だから、現物にできるかぎり触れた方がよいとの考えからである。しかし、猛烈に眠い。昼

食は空腹にならない程度で軽く抑えたのに、である。しかし、今日はホテルに戻って寝る訳にはいかないのです、重要箇所を探し、メモを取る。

メモ1. Ford Reportについて

過去にすべての商学部・経営学部等において過剰なほどにその特徴としていた職業訓練を中心とする考え (vocational approach) は現在不適切と考えられる。

経営学の問題解決に向けた社会科学および行動科学の領域に属する基本的学問の応用に継続して重点が置かれている。

経営学の教員は研究指向を強めている。

現在の知識を伝達するだけでは不十分である。

カーネギー財団の報告書とは友人関係 (companion report) にある。(以上序文)

メモ2. Carnegie Reportについて

3年間の研究である。

2つのプロジェクトの間での分業

謝辞

C.E. Barnard, "Education for Executives," *The Journal of Business*, XVIII (October 1945)

J.S.H. Bossard and J.F. Dewhurst, *University Education for Business*, U. of Penn Press, 1931.

R.D. Calkins, "Objectives in Business Education," *Harvard Business Review*, XXV (At, 1946)

J. Dean, *Managerial Economics*, Prentice-Hall, 1951.

A.N. Whitehead, *The Aims of Education*, Mentor edition, published by The New American Library of World Literature, 1949. 1929 (by Macmillan Co.,) (以上序文)

当研究の理由

経営学部の目的は、大学院のトップ校と同程度の教育を行うことか職業訓練学校の

教育かの両極になった。(p. 6)

Flexner*Report, 1910.

Bulletin No.4 of the Carnegie Corporation

(*Abraham Flexner, Medical Education in the US and Canada)

専門教育と一般教育とのバランス
(p.148)

Stephens Hallの2階でFord ReportとCarnegie Reportが同じ棚に並んでいる所と、両書を持つ私の写真を撮る。国際会計教育会議での温故知新に基づく見解の用意はこれでOKである。30年前の *Accounting Review* で大問題になったこの両報告書は現在のAECC委員会ではまったく取り上げていないから、十分な問題提起はできるだろう。1階の司書に昨日の礼を言ってProfessor George Staubusの研究室の電話番号を教えてもらう。642-4733。構内電話 (campus phone) の場合は、64が不要とのことで、念を押される。しかし、教授は不在の由 (「This is George Staubus. I am not in campus. Call my secretary Loraine Sage 642-0115.」)。

商店街で井関教授に会う。「今日は警官が多いですね。警察犬までいますね。食事ですか、あっちに日本食がありますよ。満腹という店で、それはもう本当に満腹になります。中華もあります。皆、ここは安いですよ。」とのことである。何ともいい人柄は気持ちよい。しかし、食事には行かず本屋を2軒見る。しかし、会計のコーナーはなく、経営のコーナーがあるのみで、しかも会計の本は一冊も置いてない。これは一体どうしたことかと啞然とする。チラシビラで入ったイタリア料理店に行ってみると、平日は15:00閉店とのこと。欲のなさにあきれてしまう。トルコ人のサンドイッチ屋でGreek Sand and Coffeeを食べる。\$ 3.71。シーフードやサラダをギョウザの皮の柔らかいので包んだもので、サンドイッチというより巨大中華饅頭という方が当たっている。皮さえあれば、帰国後、私も作ってみようと思う。

ホテルに戻って寝る。17:40—19:30。目覚めてからお粥を仕込んで、前宣伝がすごかったThank you JFK (9 channel) を見る。何のことはない、記者会見のVTRをまとめた白黒時代の再放送であるが、核兵器の過剰攻撃力の蓄積や軍縮について記者団とやりあう所は、中々の迫力だった。現在のブッシュ記者会見と違うのは、記者が大統領に対して親しみと尊敬をもって臨んでいることである。風呂に入って寝ることにするが、寝れないのでCNNのニュースを見ると、アナウンサー、Christy Bryanはスタジオで、視聴者は電話で意見を言うコーナーがある。丁度、ボスニアの収容所のTVが流された後だけに、この問題についての意見が多い。中には、ソ連陸軍はけしからんというお婆さんの意見があり、これにはアナウンサーと一緒に私も吹き出してしまった。就寝、2:54。

8月5日

起床6:30。朝食7:00—7:45。ただちに、図書館本館へ、検索機XA081機で検索。8:06—11:15。本日の検索目的は、国際会計教育会議準備、簿記学会準備、国際投資資料収集および現在価値/DCF資料収集であり、大変である。

ウォーミング・アップでFI CN Chubuを検索するとretrieved 5itemsである。その[1]が中部経済新聞社には驚いた。残念なことに他の4件に中部大学は出てこなかった。(*?UCB92-26)

FI CN Wasedaでは、retrieved 71 itemsである。順次表示して行くと[25]が『早稲田商学』である。やはり、リーディング校は国際的に知名度があるものである。(*?UCB92-27)

FI TI principles of accountingでは、retrieved 27 itemsである。昨日同様に出版年度をメモする。(*?UCB92-28)

1926, 1950, 1934, 1923, 1922, 1913, 1974, 1953, 1919, 1939, 1958, 1937, 1910, 1920, ???, 1921, 1965*, 1958*, 1965, 1969, 1916, 1918, 1967, 1979, 1970, 1963*, 1957*

(*Finney and Miller)

FI TI accounting では、retrieved 713 than

itemsである。(*?UCB92-29)

FI TI expectancy theoryでは, retrieved no itemsである。(*?UCB92-30)

FI TI expectancy theoryでは, retrieved 1 itemsである。(*?UCB92-31)

FI TI Pollution costでは, retrieved no itemsであるが, FI TI pollutionでは, retrieved 161 itemsである。(*?UCB92-32,33)

FI TI capital costでは, retrieved 4 itemsである。研究開発費管理に関連付けられる文献をメモする。(*?UCB92-34)

FI TI international investmentでは, retrieved 29 itemsである。(*?UCB92-35)
(*?UCB92-34)

FI TI Sakuraiでは, retrieved 1 titleである。
(*?UCB92-36)

FI TI capital costでは, retrieved 4 itemsである。(*?UCB92-37)

FI PN Needles, Bでは, retrieved-itemsである。(メモミス)。(*?UCB92-38)

FI PN Evans, Tでは, retrieved 47 itemsである。28番目のEvans, Tを検索すると, retrieved 5 recordsである。さすが, AAAの国際会計部会長を務め, 円卓討論の司会を担当するだけのことはある, と感心する。(*?UCB92-39)

FI PN Burns, Jでは, retrieved no itemsである。(*?UCB92-40)

FI PN Yardley, Jでも, FI PN Wright, Gでも, FI PN Kauffman, Nでも, retrieved no itemsである。(*?UCB92-41,42,43) これら円卓討論の同席報告者達は, FALDの検索ではJames Yardleyが3点, Gail Wrightが1点, N.Leroy Kauffmanが無業績である。中堅の司会者と業績の少ない若い年齢層の同席報告者達と1時間半の討議を行うというスケジュールから, その場の雰囲気はこれで想像できる。情報なしも一種の情報である。

FI PN Staubus, Gでは, retrieved 7 itemsである。Staubus教授には, 表敬の意をもって明日訪問の予定であり, 話ができれば, 1974年の*The Accounting Review*誌の論文「会計教師の責

任 (The Responsibility of Accounting Teachers)」のその後の見解と, 国際会計教育会議でAAA会員が他国の会計教育について何を知ることが最も生産的と考えるのか, について尋ねる予定である。更に, 同教授の業績を知っての万全を期すために検索した。4年前に原価計算の本を出版していたとは初耳であり, あわててメモする。(*?UCB92-44)

FI TI research and development costでは, retrieved no itemsである。(*?UCB92-45)

FI TI research costでも, retrieved no itemsである。この結果は意外である。(*?UCB92-46)

FI TI benefitでは, retrieved 61 itemsである。4件をメモする。(*?UCB92-47)

FI TI computer educationでは, retrieved 7 itemsである。内, 1件をメモする。
(*?UCB92-48)

FI TI DCFでは, retrieved 1 titleである。
(*?UCB92-49)

ここまで作業をすると疲れる。早めだが切り上げて, ASUCの中を通過して昼食。トルコ人の店でLunch Special, Coffee \$ 2.99を食べる。これも, チキンの切れ身, 輪切りタマネギ, 赤カブ, ブロッコリー, サラダ, トマト, クルトン(食パンをアラレ状にした揚げ物)をスパイスで味付けしたトルコ風サンドイッチである。

午後はStephens Hallに行く。12:45—14:25。Fabrycky=Blanchard共著のLCCを探すが所定の棚にはない。門田=桜井共著の*Japanese Management Accounting*も同様である。両書とも, コピー機の横においてあるReshelving Cartにも, 20人程の入館者の机上にもない。昨日, 司書が言っていた暫定用の棚にもない。Missing!

そうこうしている内に1時を回ったので, カウンターに行き, Off-Campus Shelvingの文献が届いているか否かを尋ねる。奥の方から, 例のデップリの黒人司書が笑いながら本を高く上げて出てくる。私にとっては幻の*Handbook of Industrial Research Management* (Carl Heyel, ed., 1959) との対面である。昨年の*Life*

(August 31, 1962) との対面の感激が蘇ってくる。パスポートを提示して、受領書にサインをする。本には帯が巻いてあり、「学内便1号車。当資料は閲覧者『竹森一正』に提供される。貸出期限は当資料裏表紙上の带上押印のとおり。任意のカリフォルニア大学返却カウンター、またはカリフォルニア大学北部地域図書倉庫にて返却のこと。貸出期限1992年10月5日。(Bus 1. Material supplied for patron : Kazumasa Takemori. Date due is stamped on charge slip in back of item. Material may be returned to the circulation desk of any UC library, or to : Northern Regional Library Fac. Richmond Field Sta., Bldg. 400, University of California, Richmond, CA 94804-4698. 510/232-7767, 510/642-NRLF. DUE : OCT 05 1992)」何という感激であろうか。私はパスポートしか見せていないし、住所電話にしても Hotel Durant のものである。ASUCでのパソコン・ソフト購入の際のようにIDもID番号も尋ねられない。私とカリフォルニア大学との関係はまったくないし、紹介状もない。それなのに、2月間の貸出である。さすがやることが違うと感激感激である。UCBやUCLAに精通している人なら当然のことなのだろうが、私が国内で他校図書館を利用する際の経験と比較すれば、雲泥の差を通り越して夢のようである。

Stephens Hall 2階の北側の机に席を取り、本全体に目を通して、目標とするJames Brian Quinnによる研究開発費予算の決定法の体系と計算公式をコピーする。カウンターに札を言って返却すると、例の黒人司書は「You are welcome. You have done ?」である。また、机に戻りChoi = Mueller共著の『多国籍会計序説 (An Introduction to Multinational Accounting)』

『国際会計 (International Accounting)』を閲覧する。14:00を過ぎた頃、風の関係かあの臭いのがフワフワという調子で漂ってくる。UCBはよい所だが、このくさいのがたまらない。14:25で退館。\$ 25で公衆電話で秘書のLorraine Sageに電話すると、「この番号の通話には、更

に\$ 20入れよ」とのテープが流れた。これは一体どのようなシステムなのだろう。

眠さと臭さで今日はやめにして、サンフランシスコ観光と再度の書店探しに挑戦しようとした。Montgomery BART 駅で下車、Market Streetに沿ってCivic Centerまで書店を探す。変な書店はあっても専門書を扱う書店はない。15:00というのに通りはホームレスの群れで「Dime, sir」「Quarter, sir」「Dollar, sir.」と頻繁に言われていやになってしまう。郵便局はBus Terminalの北東にあるらしいので、MUNIのトロリーバスで終点まで行き、尋ね尋ねて郵便局へ行き、絵ハガキ用の切手17枚と学生金子聖宛封書の切手を購入する。ここは余分に金をとられないので安心である。まだ日が高いのでゴールデン・ゲート・ブリッジまで行ってみようと、サンフランシスコ湾に沿って北上するMUNIのバスを待つが、5~15分間隔のはずが来ない。長い時間待っていると、面白い。

「What time, next ?」とか、「How long are you waiting ?」とか聞かれるのはよい方で、「No service today?」には参った。45分待って目指すバスが来るが、Fisherman's Wharfを過ぎて、ケーブルカーの駅で運転打ち切りになってしまった。Transferの時間切れ寸前なので、MUNIのトロリーバスでMontgomery BART駅まで行く。途中の中華街では八百屋の店頭の白菜が\$ 39となっている。お土産に欲しくなった。安上がりの市内観光である。

帰途、井関教授から聞いた「満腹」へ入る。テンプラを頼むと、塩気のないサッパリした、しかもボリュームたっぷりのテンプラである。ご飯はうまい。何しろカリフォルニア米の本場だ。しかし、念願のみそ汁がよくない。とにかく、新鮮味がないのだ。味が古くてイキがない。これは落胆。これは、マスター(社長?)は気さくで腕がよさそうなのだが、ウェートレス(奥さん?)はお作法が悪く、愛敬ゼロ、ということになぜか相似関係を見る。値段は\$ 7弱だから、マッいいかと思う。

ホテルに帰って20:20。明日から東部時間で

起床の練習である。でないと、7日のダレス空港行きに乗り遅れたら大変なことになってしまう。この1週間の生活から、寝るのはどんな時間でも、起きる時間だけ正確にすればよいらしいので、室内のアラームは5:00にセットして、バッグから目覚し時計を出し5:15にセットする。これでも東部時間では8時である。

8月6日

時計のアラームが鳴る5分前に目が覚める、外は早暁の暗さである。しかし、6:00になれば、十分にBerkeley BART駅まで歩ける明るさになる。タクシーは恐いし、エアポート・シャトルは\$17で、しかも運転間隔が長い。駅まで安全に歩くには……と考えていると、5:43と5:53にバスのエンジン音が坂を上がっていく。7系統Rockridge BART行きか51系統Alameda行きであろう。いずれにしても、明日は歩かなくて済むことになった。朝食のためレストラン、7:15—8:00。

図書館本館の検索機XA081機で検索、8:40—10:07。今回のUCB調査は今日が最終日であるから、やり残した件の総ざらえをすることにする。

FI PN Quinn,Jでは、retrieved 34 name entriesである。26番目のQuinn,James Brian 1928-を検索すると、retrieved 2 recordsである。内、1件をメモする。(*?UCB92-50) 更に、ここに出てきたシリーズ名を調査する。

FI SE Series on technology and priorityでも、FI SE technology and priorityでも、retrieved no itemsである。(*?UCB92-51,52)

FI PN Dean,Jでは、retrieved 52 name entriesである。26番目を検索する。ちなみに、[26] Dean,Joel,1906- [27] Dean,Joel,1909- [28] Dean,Joel,1909-……Congresses,の3人のJoel Deanがいるらしい。(*?UCB92-53)

LI 27で27番目のDean,Jを検索する。(*?UCB92-54)

FI PN Olsenでは、retrieved 254 name entriesである。これでは多すぎて調べられない。「オ

ルセン法」の原典を確認したかったのだが、Olsenのフルネームを忘れてしまったのがまずかった。(*?UCB92-55)

FI TI cash flowでは、retrieved 11 itemsである。直接に研究に役立つ文献はなさそうだが、出版年度に特徴があるのでメモする。(*?UCB92-56)

1984, 1961, 1987, 1986, 1989, 1984, 1981, 19?? 1972, 19??, 1969

FI TI pollutionでは、retrieved 254 itemsである。これでは多すぎる。(*?UCB92-57)

FI TI pollution costでは、retrieved no itemsである。(*?UCB92-58)

FI TI anti-pollutionでは、retrieved 1 itemである。(*?UCB92-59)

FI TI pollution abatementでは、retrieved 8 itemsである。7番目をメモする。(*?UCB92-60)

FI TI nuclearでは、retrieved more than 500 itemsである。これでは多すぎる。更に絞り込むためには私の情報が不足である。(*?UCB92-61)

FI TI discount rateでは、retrieved 2 itemsである。(*?UCB92-62)

検索機で検索中にも、多くの人が近くの電源が入っている端末を操作するが、今日はなぜか臭い人が多い。最初に隣に座った緑色のセーターの学生などは新鮮そのものの臭いを放散していたし、隣に座ったドイツなまりの老人はこれもすごい。これだけは、男も女もない、黒人も白人もない。頭が変になってしまう。

Stephens HallでFabrycky=BlanchardとMonden=Sakuraiを探すがない。Ford Report (Gordon) とCarnegie Report (Pierson) に別れを告げる。2階のコピーの近くの構内電話でLorraine Sageに電話する。ハキハキとしてきれいな発音で、しかもハシャグように楽しく話す女性秘書である。さぞや学生に人気があると思う。しかし結果はよくない。「Do you talk to Professor Staubus?」の応答は良いのだが、一瞬の間の後、「Amh, he is not in campus now. He will go to a convention tomorrow.」である。

会計学会 (AAA) 直前に変な外国人に來られて、訳の分からない問答の相手をさせられたのではかなわないことは、私もよく理解できる。

環境設計の専門図書館である Wurster Hall に入館する。12:05—13:15。昨年、あまりの構内の広さにカンが狂ってしまい、行けなかった所である。今日は時間の余裕もあり、ゆっくりと行ける。授業時間の境目なのか学生の姿が多い。Ruegg による商務省の文献はすぐ見つかる。ここでは、Ruegg が空軍を退役後商務省で勤務し、Life-Cycle Costing を指導理念として、公共建物の建築や冷暖房設備の見積計算に腕を奮っていることが分かった。私が昨年以來問題としてきたキャッシュ・アウトフローの計算式も出ている。また、Alphonse Dell'Isola の文献では、Life-Cycle Costing の歴史が紹介されている。昨年は、ここにまず来るべきだったと思う。このような文献がすぐに見つかるなんて UCB はものすごい所である。この Wurster Hall に収蔵されているのは殆どが建築関係のようである。環境関係の文献も多い。写真集などはついつい見とれてしまう。検索リストで Environ Dsgn とされているものの閲覧とコピーを終えて 1 階へ行く。

Rosalie T. Ruegg et al., *Life-Cycle Costing, a Guide for Selecting Energy Conservation Projects for Public Buildings*, (US Dept of Commerce, 1978) の Glossary (p.43) をメモする。

メモ 1. Life-Cycle Costing (LCC)

プロジェクトの実施期間中の各代替行為に関係するすべての関連原価を考慮する。代替案の経済的評価の方法。建物に関するライフサイクル・コストは、すべての取得費、運用費およびエネルギー費用を含む経済的耐用年数全期間内の維持費を含む。

A method of economic evaluation of alternatives which considers all relevant costs associated with each alternative activity on project during the time it is in use. For building, life-cycle costs include

all costs on owning, operating, and maintaining a building over its *Economic Life*, including its energy costs.

メモ 2. Net Annual Value of Savings

(ライフサイクルのエネルギーの年間節約額) - (ライフサイクル・コストの中での年間関連増加額), または (ライフサイクルのエネルギーの年間節約額) + (ライフサイクル・コストの中での年間関連減少額)

The *Annual Value* of life-cycle energy savings minus (or plus) the annual value of the related increase (or decrease) in life-cycle costs.

メモ 3. Net Annual Value of Investment Costs

初期投資額の現在価値 + 主要な取替投資額の現在価値 - 残存価値の現在価値

The Present Value of the *Initial Investment Cost* plus the present value of *Major Replacement Investment* less the present value of *Salvage Value*.

メモ 4. Present Value of Savings

(ライフサイクルのエネルギーの節約額の現在価値) - (ライフサイクル・コストの中での関連増加額の現在価値), または (ライフサイクルのエネルギーの節約額の現在価値) + (ライフサイクル・コストの中での関連増加額の現在価値)

The present value of life-cycle energy savings minus (or plus) the present value of the related increase (or decrease) in life-cycle costs.

メモ 5. Total Life-Cycle Cost (p.44)

特定の投資についての、初期投資額 (残存価値控除後), 主要取替投資額, ライフサイクル全期間の維持費, 修繕費およびエ

エネルギー費の合計額。

The sum of the costs of the *Initial Investment* (less *Salvage Value*), the *Major Replacement Investment*, maintenance and repair, and energy, over the life-cycle of an investment.

Alphonse J. Dell'Isola and Stephen J. Kirk, *Life-Cycle Costing for Design Professionals*, (New York: McGraw-Hill, 1981) のp.9をメモする。

従って設計専門家にとって、ライフサイクル・コストイングとは、経済的耐用年数全期間について所有者に関わるすべての主要費用を考慮して設計代替案を貨幣価値により事前評価することである。

So, for design professionals, life cycle costing is an economic assessment of design alternatives considering all the significant costs of ownership over an economic life expressed in equivalent dollars.

玄関の横に軽食用のコーヒESHOPPがあり、昼食とする。遠くの席から私をチラリチラリと見ながら話をしている2人の日本人がいるので話掛けてみると「まあ」しか言わない。心に冷たくて厚い壁ができてはじかれそうな雰囲気的人物達であった。この1週間で日本人、韓国人、中国人の見分け法が分かってきた。視線が合いそうになったらあわてて目をそらすのが日本人、スマイルを送ってくるのが韓国人、我関せず唯我独尊と平然としているのが中国人である。結局、日本人が一番感じが悪い。とてもアメリカで過ごす態度ではなかりうに、と同情してしまう。こういうのが大勢いるかぎり、日本の国際化なんて絶対不可能である。

工学関係の専門図書館Davis Hallへ行く途中、時計台のSather Towerの前で行列ができていて、\$50で登れるのだった。上に登るとさすが学内のどこからも見えるだけあって眺望が良

い。Berkeley BART駅などすぐ手前の感じだし、Auclandの市街もすぐ隣町といった感じである。一番の感激は、サンフランシスコ市街のスカイラインが遠望できることだ。目線を右に移すとアルカトラス島、その上方にゴールデンゲート・ブリッジが見える。いい観光をしたと思った。

Davis Hallに入る、14:30—17:00。これは工学部の建物のようにであり、東側半分が図書館Bechtel Hallになっている。どうもこちらが本名らしいが、図書館地図ではDavisになっている。Bechtelは、書庫と閲覧室が2階にわたって配置されている。2階部分に司書の受付とコピー機がある。

Jack V. Michaels and William P. Wood, *Design to Cost* (New York: Wiley, 1989) を探すと、棚TS167にない。例によって閲覧者の机とコピー機横のReshelving Cartを探すがない。司書に相談すると、探してくれたが、首を傾げて戻ってくる。日本ならば、「先生ですか」とか「何学部」とか聞いてから次の話が始まるのだが、UCBの図書館は違う。「I'm sorry, I can't find it. I'll try to find it and keep it for you. When do you come, next?」である。ありがたいことだが、次回来館は来年の夏であることを告げた。

この図書館設置のBenjamin S. Blanchard and Wolter J. Febrycky, *Systems Engineering and Analysis*. (Englewood Cliffs, NJ: Prentice-Hall, 1981) を8月17日まで借り出しているのはどのような人が興味があり、教えてくれるように頼んだが、個人情報なので教えられないとのことであった。中部大学なら「それは竹森先生ですから電話してあげましょう」という調子なのだが。誠に残念。ついでに、Stephens Hallでも、このLCCの本が行方不明になっていることを参考に教えた。この中年の白人の女性司書は、キツイ顔をして「It's strange and interesting. I'll check.」と言ってくれた。借り出しができるのだから、載いていなくても勉強できるのに、なぜこんなことをするのだろうか。これをDavis Mysteryと名付けた。こ

のUCBの中でLCCを勉強している人が少なくとも2人いることが分かったことが今回の研究旅行の最大の成果かもしれない。私は深呼吸をして外へ出た。帰りはASUCを通っていった。どこかで、HPの電卓を売るビラを見たのだが、確認できずに今日までできてしまって心残りがするためだ。\$128で、本体、赤外線コードレス・プリンター、PC & Macデータコネクター、フロッピー?枚という超破格値段である。こういうカッコいい物は研究室で使えば学生の刺激になるし、家庭で使えば子供達の刺激になる。おみやげ代わりにオモチャとして買ったかった。ビラはASUCの入口ドアの横にあった。でも、今日はUCB最終日なので買いにいかず残念無念である。次回はまず第1にこういう掘出物を買おうと悔やむ。時計売場で娘のみやげの時計を見るが、UCBの学生は質素らしく、UCBのロゴ入りとかゴールデンベア・マーク入りの時計はない。Berkeley Bookstoreで新学期用の12年生用会計学教科書と副読本を合計\$52で買う。最新の資料であるから、簿記学会でも使えるであろう。次回のUCB行のために、同じDurant AvenueにあるVictoria Hotelで来年用なのだと断って予約用のパンフレットをもらう。表には\$50と書いてあるが、実際はそれより少々高いようだ。Hotel Durantの\$85よりは安いだろう。これからは、グロスで\$50程度のホテルを確保せねばならない。

ホテルへ戻って18:30、夕食は昼のWurster Hallのコーヒーショップでのパンの残り、Tachosの残り、韓国人のスーパーで買ったジュースとビールである。明日は5時に起床して、すぐにチェックアウトなので、荷物整理をする。約2時間要する。

8月7日

起床5:07。洗面、ヒゲソリ、荷物最終パック、部屋確認と、昨夜考えておいたとおりに行動する。5:42、バスのエンジン音が坂を上って行く。その音を合図に部屋を出る。チェックアウト\$682.07 VISA chargeである。井関教授

に手紙を託す。この先生のおかげでずいぶんと楽しく助かった。

Bodridge Roadのバス停で待つと、坂をバスが上ってくる。乗客は4人いた。皆眠そうな顔をしている。運転手は、魅力タツプリの若い黒人女性である。乗客に実に優しい。バスの窓からこの時間帯は安全時間帯であることを発見した。ジョギングの男性、老夫婦の散歩、犬を散歩させるおばちゃん、もう人通りはかなり多い。夕方、あれだけいたホームレスはまったくいない。10分程でRockridge BART駅である。殆どが下車。運転手が右と左を指して、太く優しい黒人なまりで「It is steps. Escalators, over there. Have a nice day.」である。嬉しくなってしまった。この駅はConcordを始発駅とする支線にあるが、両側を5車線の高架方式のハイウェイではさみ、中央をBARTが走るようになっている。総合的な運輸通勤計画で建設されていることがよく分かる。

このRockridge駅でBARTは満席となる。ホームから車内に入ったとたん、私は思わずうめってしまった。白人7割、黒人3割の車内は、またもあの臭いで強烈に充満している。皆、規則正しい生活をしている証拠だし、健康な食生活をしている何よりの生きた証拠だから良いことなのだが、どう私は納得したら良いのだろうか。私は新鮮な健康な臭いを放射している黒人の横に着席した。前の席の白人のおばあちゃんからと品のよくない青年からも、電車の換気ファンが向く度にこの健康な放射がやってくる。通勤の時間帯であるから、Civic Center駅で下車する人が多く、車内は私と日系人らしい女性だけになってしまった。

Daly City駅は霧に包まれて霧雨が降っている。夏服の背広は寒い。20分待つ間、路線バスに混じって、海軍の通勤送迎バス、California State Universityの通勤送迎シャトル、会社の通勤送迎バス、観光バスが入ってくる。旅行用大型のサムソナイトを引っ張って走ってきた若い黒人女性は「Can I catch my eight o'clock flight?」と、私に尋ねる。どうも3B系統のバ

スにのるらしい。時間は7:21の発車直前だから、私がビックリしてしまった。このバスのSFO到着は7:59なのだ。縄ノレンのように編み上げ1本1本にアフリカ調の小さなリボンをつけた髪と茶色の眼を交互に見ながら、BART PARK BLDGの前からのタクシーを勧め、ついでに「You have to get up early. Safety arrival!」と言ってしまった。若い人がたると、つい職業が出てしまう。このバスは高速道路を走るがインター毎に町へ入り乗り降りさせるために遅いのだと分かった。路線バスならボラれる心配はないし、エアポート・シャトルのように雲助運賃や日本人だけのチップ請求もないので安心だ。それにしても、この白人の中年の女性運転手は愛敬がない。ロボットみたいだ。霧雨の中を黙々と走るだけだ。

ワシントン・ダレス行きUA50便は、ジャンボジェットである。日本からの国際線で飛んできたのを国内線に回したようだ。日本語のパンフレットや雑誌が乱雑に席の網に入っている。隣はドイツの学生で、近くはイタリア人の団体である。離陸後ランチが出る。西部時間では朝食だが東部時間では昼食だ。以前のシアトル発ニューヨーク行きのランチと比べると少々ダウンしたようだ。あまりうまくない。昨年のSFJ発フォートワース行きのAAの機内食より量も少ないような感じだ。イタリア人というのはにぎやかなものだ。網の中の雑誌を読んだり、UCBでのコピーを読んだり、居眠りしたりと、ノンビリとする。

ワシントン・ダレス空港16:50 (西部時間13:50) 着陸である。4:30の飛行であるが途中経由なしの直行便であるため、楽だ。荷物引き取り後、出口手前のバス切符売場でWest Falls Church METRO 行きのキップ \$ 7 を求め、Washington Flyer・エアポート・シャトルに乗り込む。大型バスのナショナル空港行きはほぼ50%程度の乗車率で発車している。こちらは、小型で、前列が運転手と乗客2名、後列が乗客3名のバンである。前列は若い白人と私、後列は中年の白人男性2名である。このデブプリ

太った2人は話からAAA大会参加のようである。議会図書館調査も目的としているらしいから私と同じである。約20分でなつかしの「西滝教会駅」到着。ホテル・シャトルやタクシーが来るのは南口で、エアポート・シャトルは北口発着であることが分かった。南口から路線バス28BでRamada Lisle Avenue下車、\$ 1である。時間は7分。バスがLeesburg Pikeに入ってから、左に高校が見え、右の盛り土の上にタイ語の看板が見えて、その前のメトロバスの停留所標識を過ぎたら、天井近くのヒモを引き、次の停留所で下車する。眼の前がRamada Tysons Cornerである。

18:30のチェックインで、1年振りのラムダ・ホテルであるが、フロントの雰囲気は少し違う。Complimentary ServiceとFree Facilitiesの説明がないし、対応がそっけない。「人が変わったな」と思う。部屋450号室に入った途端、これは何だ、と思った。とにかく、部屋がタバコ臭い。ヤニの間である。メモ用紙だって上の1枚目だけがあの厚紙で淡いムラサキ地のラムダ・メモで残りはペナペナの無地のメモであり、しかも10枚しかない。客の中には、ホテルのメモ用紙が楽しみの人が結構多いだろうに、と思う。ホテルに入ってから万国共通のレクリエーションはTVと風呂であるが、TVがまたもいけない。去年もボロTVだなあと思ったがそのままの機種である (色があせていて、リモコンがない、時々ノイズが入る)。お粥を作るために水を求めて洗面所に入ると、便器にタバコのスイガラである。こりゃいかんなあ、と呆れてしまう。用意したウメボシは今日で終わりだ。22時を過ぎた所で自宅へ国際電話、日本時間午前11時。ゆきえが「お父さん、このごろ帰って来ないよ、死んだの。」と言っているのだそうだ。安心させるために、ゆきえと話す。おチビさんなりに心配をしてくれてありがたい。彼女なりに悩んでいるのだろう。

なぜか、疲れてしまって全然勉強できない。すぐ眠くなる。就寝12:30。

8月8日

起床5:58。西部時間なら深夜だからと、もう一度寝て正式起床8:13。これでも西部時間なら5:13である。昨日の機内食の残りを朝食代わりにして9:30シャトルで西滝教会駅へ。Capital South METRO駅から新館Madison Bldgへ入ったのはいいのだが、コーヒーショップは改装工事中、6階の食堂は休みである。腹が減っているが、まず113号室でデータベースのダウンロードをしようと司書に尋ねたが、???という。さっぱり分からない。紙に書いてもらっても分からない。(帰国後このメモを見たら、VIRUS-computer industryと書いてあった。あの司書は私にコンピュータ・ウィルスのことで何を尋ねようとしたのだろう。) ダウンロードはできるというので、そのデスクへ案内されたら、1年間で機械は新しくなり、5インチ機はなく、全部3インチ機である。私はわざわざ5インチ・フロッピーを4箱(40枚)持ってきたのだ。「インチキ!」と呟いたのだが、誰かこのジョークを分かってくれたらどうか。ダウンロードさせてくれるシステムは次のとおりである。

Proquest

Research Edition

(GPO) (TM)

@University Microfilms, Inc.,

950 items, 200 journals

これでは、Madison Bldgでの用はないので、外へ出て、昼食とする。立席ができてるのがうまい所と、混んでいる店を探す。ステーキ・バーガーとアップル・ジュースで計\$4弱。途中で日本人の老夫婦が入って来る。しかし、とっさに眼をそらしてしまう私、日本人である。

本館Jefferson Bldgへ入る。今年の入館制限は去年より厳しい。何の本を読みたいかを尋ねられる。私はUCBでのメモを示して入館。Jack V. Michaels, *Design to Cost*, US Federal Supply Service, *Life Cycle Costing Workbook*, Fabrycky and Blanchard, *Life Cycle Cost and Economic Analysis*を請求したが、約30分後と50分後には、

3書とも、Not on Shelfとのことが知らされる。私はエッと思った。この広いアメリカの西端ではMissing, 東端ではNot on Shelfということは、どうしたことだろう。LCCを研究・勉強している人物は、日本国内だけでも私一人ではない。まして、アメリカにおいてをや、と思わなければならないのであろう。とにかく、現地で直接経験できたことは、大収穫ではないか、おめでとう、という気もすることはする。

みやげを買わねばならない。早めに退出する。16:30。Capitol South METRO駅でこれからの乗車のことを考えて\$20のキップを買う。何と\$2のオマケが付いている。西滝教会駅から路線バスでTysons Cornerへ行く。昨年同様に新学期セール(Back to School Sale)の最中である。二人共Timexの時計にする。日本の値段の約半分で買えた。ハンバーガー屋でサラダ・セットを求める。コーラ中サイズ(日本の特大サイズ)とサラダで\$2.00である。帰りは先ほどのバスでもらったTransferで乗車する。

夕食は、ホテル1階のレストランでWeekend Special Menuでステーキを注文しようとする、ない。尋ねると「New menu, sir.」とのことだ。あのステーキは柔らかくて厚くてうまかったのだが残念だ。ボリューム一杯はかなわないので一番安いChili Steak Setにする。ところが、最初に出てきたパンが去年よりも小さくて冷たい。サラダも上品な美味ではなく、量で勝負の一般レストラン風だ。ステーキも硬い。昨年のような風味というか甘さがない。クルトン山盛りのサラダは食べきれないので、ペーパーナプキンに包んで持ち帰ることにする。レジでは昨年のイタリア人のマスターはおらず、背の高いインド人だった。お気に召したかと聞くので、昨年と全然違うと文句を言った。彼、非常に驚いたようで、「I sincerely apologize you for your dissatisfaction. We improve bread and steak to your taste.」だそうである。いくら謝っても、経営者が代わってインド料理店になったんではもう入る気はしない。そういえば、ウェーターも昨年のイタリア人と中国人

はいないで、インド人だった。昨年、あんなに大看板を架けて客寄せをしていた朝食サービスもなくなっている。このレストランのContinental Breakfastは少々高いがうまかったのに残念である。

部屋に戻ると、トイレにはまたもタバコのスイガラである。こりゃあ、別れ時だな、と思う。ダレス空港でもらってきた雑誌のホテル広告を見て電話をするが、8月中は満室だそうで皆冷たく断られてしまう。ひどいホテルなんか私が「Reservation please.」と言ったとたんに、太い女性の声で「No.」ガチャンである。来年または次回のために、住所と電話をメモする。

(“Travel Planner,” *Washington Flyer Magazine's Here!*, July/August 1992. p.29.)。

Quality Inn Iwo Jima, \$ 59- \$ 87
1501 Arlington Blvd. Arlington, VA22209
(703) 524-5000 or (800) 221-2222

Travelodge, \$ 49- \$ 64
3030 Columbia Pike. Arlington, VA22204
(703) 521-5670 or (800) 255-3050

The American Hotel, \$ 50
1400 Jefferson Davis Hwy. Arlington, VA22202
1- (703) 979-3772

Best Western \$?
2480 S. Glebe Road. Arlington, VA22206
(703) 979-4400 or (800) 426-6886

Hampton Inn, \$ 45
Washington Dulles Airport
45440 Holiday Drive. Sterling, VA22170
(703) 471-8300 or (800) HAMPTON

The Pavilion Hotel, \$ 80, \$ 59w/e
5901 Montrose Road. Rockville, MD20852
fax (301) 881-6900 or phone 1- (800) 232-3302

8月9日

起床 6:30, 昨日のサラダの残りと持参した紅茶パックで朝食。8:05の路線バスで西滝教会駅へ行き, METRO. Capitol South駅では, 日本人OLらしい女性が2人でウロウロしている。視線が合うようなら, 話かけたかったのだが, 故意に避けられてしまう。そのくせ, 私が議会図書館 (LOC) に入っているのを見ている。黒人同士のようなきさくさは望まないが, このような日本人の「歩く鎖国」「生きているプラスチック人間」は何とかならないものか。

Adams Bldgは正面玄関が工事中のため裏側 (議会議事堂と反対側) へ回る。しかし, 「OPEN 1:00—5:00」とのこと。昨日, Macの図書館案内で, 日曜 1:00—5:00となっていたので, 8月中もそうなのかと (8月は日曜閉館だったら大変だからだ) 司書に尋ねたら「Eight o'clock open」と言われたので早く来たのに。頭に来るというのはこのことだ。ボツとして教会に入っていく人々を見る。なんとなく生気のない教会だ。ミサが始まる前なら賛美歌でも聞こえそうだが, 静まりかえっている。入る人々は, 中年以上ばかりでなぜか一人が多い。Madison Bldgに入っていく子供連れの男性がいるので, 一緒に入ろうとすると, 守衛に「Working? Readers from afternoon.」と言われた。しかも笑って「It's Sunday!」というのだ。その言い方の朗らかさに私も連られて大笑いをしてしまう。この老黒人守衛こそが, 去年 General Accounting Officeへの間違った地図を書いて, しかも「Two blocks. Ten minutes.」などと教えて, 私を半日近く歩かせた人物だ。

本日の作戦変更である。急いでラマダ・ホテルへ戻る。来る時のTransferで28Bのバスに乗ったら, 「Same bus, can't use. One dollar.」と言われてしまった。METROバスのTransferは, その名のように, 他の系統のバスへの乗換用で指定時間内の周遊券としては使えないようである。隣の席の黒人のおじいさんがTransferの使い方を説明してくれるので, サンフランシスコ

のTransferの説明をしたら、「Same system in Philadelphia. Different transfers in many cities.」と言ってくれた。

ラマダ・ホテルのチェックアウトは12:00だが、すぐ出発することにする。荷物をまとめて、ロビーでシャトルの発車を待っていると、昨年の自称パキスタンの移民で日本びいきの少年がやってきた。去年よりも大人になった感じであり、嬉しい。彼にシャトルを運転してもらい、西滝教会駅へ行く。Tysons Cornerへ買物という黒人の母子3人がシャトルを先に頼んでいたらしい。降りる時、この母子は「Thank you」は言わないし、チップも出さない。なるほど、チップをキチンと払う日本人は人気があるはずである。ところが、この少年、いうことがおかしい。今度はインドの移民だという。でも、あいかわらず、トヨタは安くて品質が良い、日本大好きとやっている。去年は感激したが、白けてしまう雰囲気である。しかし、こちらもお世辞で「I'll be back this Thursday, and I will stay again at your Ramada Hotel. I look forward to seeing you again.」とやってやった。\$1を手渡す。彼は、貰い方が上手になったようである。さも、びっくりしたような顔をして、しかも手はキチンと出して、「Thank you, sir. Have a nice day.」である。

AAA紹介のConvention HotelであるEmbassy Row Hotelへ移動である。地図で確認のとおり、Metro Center駅でRed Line線に乗換え、Dupont Circle駅で下車する。駅の長いエスカレーターを出た所でホテルへ電話をする。ここは面白い駅周辺である。エスカレーターを出たすぐ手前がコロンビア大使館、Embassy Row Hotelの正面はインドネシア大使館、近くにはポーランド大使館や婦人運動本部などがある。近辺の小国の大使館の臨時宿舎にでもなるのだろうか、玄関もロビーも風格がある。チェックインの際にバージニア工科大学(Virginia Technical Institute: Virginia Tech)の先生方からの手紙か電話メモを期待したが、渡されたのは鍵のみである。がっかりしてしまう。624

号室は小さな部屋だが、風呂も洗面台も豪華な大理石作りである。ベッドもよい。メイン会場のホテルをフロントで教えて貰いMETROで次のWoodley Park Zoo駅へ行く、\$1。知らない所へ行くと必ず正反対の方向へ歩き出す私の悪い習性が出てしまい、まったくの反対方向へしばらくの間歩いてしまった。ワシントンはサンフランシスコよりもはるかに暑い。東京とまったく同じだ。汗が流れて下着がビショビショになってしまった。

今年のAAA大会が開催されるSheraton Washington Hotelは巨大で立派なホテルだ。学会のメイン会場となるだけはある。受付で学会道具一式が入ったビニール・カバンを貰う。中のバッジを胸に付ける。これをバージニア・テックの人が見つけてくれればよい訳だ。

「あんな奴と親しいのなら、近づくのは止めよう」などと思われてはいけけないので、今回は、ジッと座ったり、ゆっくりと歩き回るだけにした。河栄徳助教授と合う。Early Bird Receptionは一人で食べなくてすみ助かった。今年のEarly Birdは豪華版である。とにかく、ローストビーフが食べ放題というのが嬉しい。ビール片手に、皿に色々と盛り付けて楽しむ。このおいしい料理を家族に持って帰りたい、と思う。河助教授は近くのホテルだそうだ。歩いて帰っていった。私は、METROでDupont Circle駅へ。エスカレーターで地上に出るとよくも湧いて出たと思う程のホームレスの群である。お世辞をいうホームレスにはDime(¢10)をやって、ただコインを入れたコップをジャラジャラさせるだけの者は無視である。コロンビア大使館前は、昼間のMETRO Policeのパトカーに変わって、キャデラックがいる。中に何人か乗っているようだ。

ホテルで出席会員名簿をめくる。掲載されている日本会計研究学会会員は掲載順に次の11名である。()内は漢字が国内所属機関、英字が留学先である。

河栄徳 (名古屋市立大学)

加登豊 (神戸大学)

河崎 照行 (甲南大学, University of Texas, Austin)

夏目 重美 (亜細亜大学, Delaware University)

椎名市郎 (中央学院大学, Delaware University)

竹森一正 (中部大学)

田中隆夫 (東京経済大学, University of Illinois)

田中嘉穂 (香川大学)

富塚嘉一 (中央大学, University of Illinois)

山口達郎 (日本大学, University of Washington)

由井敏範 (徳山大学, Baruch College)

松岡公二講師 (東京理科大学, University of Illinois) および西澤茂助手 (同) は当日登録参加のことである。

8月10日

起床 6:30。身支度をしてロビーの掲示板で会場への連絡バスの発車時間を確認するが、掲示されているのは、昨晚のレストランメニューと観光案内のみで、AAA関係は何もない。まあそんなものだ、ここ (アメリカ) は、と思いつつ、Complimentary ServiceのUSA TodayとWall Street Journalを部屋へ持ち帰る。実は、連絡バスの件は、チェックインの時にフロントに確認したら、「As our responsibility of convention hotel, we offer shuttle bus. Departure time will be on that information board.」とのことだったのだ。7:55に部屋を出て駐車場のシャトル・バンを見るが、動く気配がない。METROに乗って会場到着。8:15。入り口近くでウロウロするが、知った人がまったくいないので、開場式および記念講演会場に入る。会場の正面向かって右側には赤い制服で金モールの50人編成程のオーケストラがライト・ミュージック調の曲の演奏中である。しかし、オーケストラにしては、曲の深みがなく、調子がいやにいいのが気になった。8:35に壇上にArthur Wyatt会長他5名が登場、その途端に

会場が暗くなり全員が起立した。オーケストラが荘厳な曲を奏でる中を右通路をシズシズと旗の群がやって来る。これは、海兵隊の儀仗兵の一隊で、先頭が銃を抱えた先導の指揮官将校、次が星条旗持ち、次の4人がリボンを一杯ぶら下げた旗を抱えた兵、しんがりの将校、の7人編成である。オーケストラは海兵隊軍楽隊とのことだ。曲が停止しての静けさの中、儀仗兵は指揮官の号令で会長に礼を行い、小ダイコ連打の中で会長に国旗を渡し、会長は国旗を壇上中央やや左の奥に立てた。指揮官がまたも「分隊、気をつけ。」のような号令をかけたのを合図に、アメリカ国家の吹奏が始まった。壇上の人々は大声で歌っているようだが、私の周囲はボソボソの歌声である。しかし、歌っている人の声を聞くと、どうもパート毎の合唱になっているようだ。伝統的にハーモニーの中で育つと、合唱が当然としてできるようになるのだろう。私達は、国歌斉唱というのに慣れているが、かれらは国歌合唱らしい。

昨日のEarly Birdの豪華さといい、この軍楽隊付き儀仗隊といい、Wyatt会長は相当の実力者であると実感した。今まで参加したAAAで国歌合唱は最初だと思う。日常的に「星条旗よ永遠なれ (The Star Spangled Banner)」を歌う国だからこそできることであるかもしれない。これをわが国に置き換えれば、海上自衛隊の軍楽隊と儀仗隊が日本会計研究学会の開会式にやってきて、彼らの指揮伴奏の下で国旗拝礼を行い、国歌を斉唱することになる。後で分かったことだが、この儀仗隊は、昨 (1991) 年初頭の湾岸戦争の戦勝パレードでパレードの先導を務めた部隊であり、そこらにいる海兵隊の部隊とは一味違うのであった。

引き続き優秀会計教育者賞 (Outstanding Accounting Educator Award) の授賞式となり、Thomas J. Burns教授およびLawrence Revsine教授が受賞した。Burns教授の健康状態を配慮してか本年の受賞者のスピーチはなく、代わって両教授の弟子とおぼしき2人が祝辞を行った。この2人とも、自分がいかに教授から研究

と教育と家族について学んだとか、いかに自分が教授から現在も影響を受けているか、学恩は一生忘れない、とか、心を打つ内容であり、この点は日米に差はない。驚いたのは、呼称である。Burns教授に対してはトムであり、Revsine教授に対してはローリーである。日本語でいえば、「ちゃん」呼びではないか。恩師に対して「ちゃん」で公式の場でスピーチをするのだから、厚顔無知そのものではないかと思うのであるが、これで良いらしいから外国の風習というものは不思議だ。

記念講演は、ABCTVのディレクターのGeorge F. Will氏である。私にはさっぱり分からないジョークで会場を大笑いさせてから、憂国、深刻、過酷なアメリカの教育界と青少年の現状をマスコミ人の立場から述べた。昨年のドーンブッシュ教授と比べると本当のことを言い過ぎて面白くない。聞いていて終始ハラハラとウンザリの連続だった。例えば、アメリカの国力は基礎から崩れていて、本年の大学卒業生の4分の1は十分な読み書き能力に不足しているとか、女子高校生の10%が妊娠しているとか、高校生の10%は、エイズか麻薬か拳銃事件に関与しているとか、シカゴの某高校では生徒の70%が離婚家庭か母子家庭であるとか、日本の半分しか数学教育を行っていないから数学能力が殆どなくなってしまっているとか、学生の能力の低下に合わせて大学教育の質が下がっているとか、いや、マスコミだけあってよくも集めたと思う程の悲劇的データを次々に出してくる。UCBで見たTVでこのWillディレクターを一度見たようである。キリリとしていてズバリと本質を突いて来る人物との印象を持っている。

多数を前提にしての講演や原稿は難しい。ウソをいう訳にはいかないし、本当のことは、まして言うてはいけない場合がよくある。このような記念講演で、昨年のような全部ヨイショのウソばかりも困るが、Willディレクターのような危機感を煽る憂国の士のような講演も非常に難しい。これは、昨年のAllens会長と今年の

Wyatt会長との現実認識・現実対応への態度の現れと取ってよさそうである。その後の記念講演者の内容は、全部この悲観的現状認識と現状打破の突破口が不明な状況を憂えるものばかりであり、Wyatt会長の方針が忠実に現れていると考えた方がよいかもしれない。

国際会計部会Business Meetingに出席。議題は、10月の第7回国際会計教育会議の進行状況が主要議題である。他に、地域研究部会の打ち合わせがある。突然、私の右2人目の中年の背の高い白人女性が「Jane Burns」の指名を受けて立ち発言を始める。優しく指導力がありそうな人である。ショートカットの金髪で上下が赤いスーツを着ている。ところが、彼女は発言が終わったらさっさと退場してしまい、自己紹介の機会を逸してしまった。

昼食会はInternational Section Luncheonを予約してある。200名程が着席している会場に言ってみると、来ているはずの中島省吾教授（フェリス女学院）が見えない。こういう時には、白人の中へ入らず、アジア人の中に入ることが自然らしいので、東洋人が2人座っているテーブルに着席する。このテーブルは、5分程でトルコ人、インド人、フィリッピン人、韓国人（河助教授含む）、日本人（私の他に冨塚教授）10名の席となった。互いに名刺交換したり、研究テーマの交換をしたりと、にぎやかに昼食ができた。この会場で最も活発だったと思う。即席のグループにしては上出来である。私の隣は金講師と金院生である。

午後の自由論題部会は、G.Mueller教授司会の「AECC検討会（Forging AECC）」に出る。これは、話を聞く部会ではなく発言をする部会のようなものである。15名程の出席者のうち、発言者が10名にも上る。となりの行動科学でドアの外まで立ち見ができるのに、教育問題は関心が薄いのだろうか。40分程で解散。

8月11日

起床7:20。会場近くのマクドナルドで朝食と思ったが、遠そうなのでホテルのコーヒース

Tandでかき込み食事。欲張って\$8分も買い込んでしまったので残りをバッグに詰めてしまう。すぐに腹が減るので、その時に食べれば良い。

昼食会はChester E. Finn, Jr. 昼食会の名称である。会場入り口で河助教授と会ったので同席する。壇上の顔がよく見えるように前の方に座る。同席者はカナダのトロントからやってきた会員。私の隣はウェーブがかかった金髪のロングヘアでおちゃめなお嬢さんという感じの女性なのだが、どうも品が悪くお作法がまるで悪い。興冷めになると話をする気になど全然なれない。本日のイベントは会計貢献文献賞 (Accounting Contribution Literature Award) の授賞式である。Myron ScholesとMark A. Wolfsonが受賞である。Wyatt会長の挨拶から、私の席から見て丁度花が置かれている壇上テーブルの位置にJane O. Burns教授がいるらしい。昼食会後にあいさつをしようと、Burns教授が座っている壇のそばで待っていると、フロアの方へ向かってあいさつをして私が待っているのと逆の階段から降りてしまった。またもチャンスを失った。

昨年の学習効果から、第2日目のReceptionは、男女共正装が分かっていたので、背広に着替えて出直しのためホテルへ戻る。Dupont Circleの駅のエスカレーターでは、辻音楽師であろうか、汚い黒人がピカピカに磨きあげたサキソフォンでシャンソン「枯葉」を演奏している。私は、ハッとした。最後の「petit déjeuner」の部分が錆びて荒れ果てた寂しさである。日本語歌詞の「枯葉よ」への伴奏と全然違って、美しさが全くない。ただ、ざらっとした感じのフィニッシュである。パリの裏町のアパートでの情景なのであるから、大劇場や銀座の小劇場の雰囲気や歌ってよいはずがないことに気付いた。大発見である。

Receptionは、開始時間が20:30なので部屋でTVを見て過ごす。このホテルのTVには有線放送のC-Spanというものすごいチャンネルがあり、議会やホワイトハウス筋を生中継してい

る。この時は、ペロー氏のPOW-MIUに関する喚問である。委員全員が丁寧にペロー氏に遠い所をわざわざ来てもらって、という調子で聴聞会出席をねぎらっていた。ペロー氏ははっと委員長を睨み付け、如何に自分が国を愛し、自分の利益にならないことに貢献してきたか、ベトナムからの救出兵士の子供から感謝の手紙をもらったとか、大統領からの感謝状をもらったとか、10分程立板に水で激しく自分の正しいことを述べた。その激しさから、この人はやばい立場にあるのではないかと感じてしまう。しかし、ケリーという委員長は、ペロー氏をはっと睨み付け、「子供を引用して感情的発言はするな」とか「傍聴者は示威 (実際は拍手) をするな」とかなり厳しい。わが国の予算委員会の参考人喚問とは大違いである。196X年に誰誰に会ったとか、誰誰に\$X渡した理由は何かとか、X年X月X日にベトナムのXXでXXということを行いましたねとか、よく調べてあるし、情け容赦なく責めたてる。さすがのペローもぐっと答に詰まる所が時々あり、この人は黒かなと思ってしまう。こんな嫌疑を掛けられているのでは大統領選挙から降りるのは当然だと思った。この疑惑は誰がどのような理由で調査開始となったかは知らないが、30年近く経って、真相が解明されようがされなかりょうが、関係者はベトナムとは無関係の所で生活しているのだし、死んでいる人もかなりいるだろうから、誰が得をするのだろうか、とこれ自体を疑ってしまった。大統領選挙と関係付けければ、Clinton=Bush両氏にとっては疑惑様々であろう。それにしても、このC-Spanというチャンネルは面白い。アメリカ国内では有線放送 (有料) で全国でみられるらしい。

USA Todayの広告に「Ramada Summer Campaign」がある。\$39—\$49がずらりとならんでいる。Tysons Cornerは\$79—\$59だし、もういやだから、DC地区のRamadaに優先順位を付け、1-800で電話する。この広告はAmerican Expressのユーザー向けであるので、私はAmerican Express Holderではないが、Ramada

Business Card Holderであるので、この広告の料金で泊まれるよう便宜を計ってくれと交渉したらOKである。Ramada Hotel Rockvilleと告げるとOK \$ 85という。とんでもない、USA Todayには\$ 49と書いてあると粘ると、またもOK \$ 49、といって予約番号を知らせてくれた。AAA後の4泊分の確保である。念のため名前を確認したが、アリガタサン、ハイ、だそうだ。本名かチャカシか。いいかげんな電話受付嬢だ。

19:50に部屋を出て会場へ向かう。しかし、入り口でしばらく待ったが、誰も声を掛けてくれないし、日本人は誰も見かけない。国際会計教育会議の関係者との打ち合わせは失敗だなあと思うと切ない。でも、メシは食べねばならない。誰かと食事せねばならないから、パーティは学会の交流の場として良い形式である。入場が一段落した所で私も会場へ入る。誰かに声を掛けてもらうため、わざとテーブルの間をクラシカルにゆっくりと歩いたが、知っている人が全然見あたらない。飲物コーナーでビールを貰い、昨日の経験から、東洋人のテーブルを探す。もう、どうでもいいや、の気分で、とにかくメシにありつかねば腹が減ってしかたがない。白人2名、東洋人3名のテーブルを見つけ、「Vacant ?Anybody comes ?May I sit down ?」と断って着席した。全員と握手して、まずは世間話であるが、座の真ん中の韓国人が、次のような大変なことを尋ねる。

自分 は、許 仁 茂 (Dr.In-Mu Haw, Ph.D., Associate Professor of Texas Christian University) で在米韓国人会計学教授協会の会長 (President of Korean American Accounting Professors' Association) である。

昨日、AAA在米韓国人会員が70人集まった。

日本人会員との交流を持ちたいとの希望が出された。

会長として交流実現を計りたい。

日本会計学会 (The Japan Accounting

Association) 会長の名前と住所を教えて欲しい。

アジア地域の比較会計の共同研究をしたい。

この会場で日本人会員を探したが見つからなかった。

私は、まずこの70人という数の多さに感嘆してしまった。既に韓国人はAAAの中で一大勢力となろうとしているのである。いつのAAA大会でも、日本人会員が公式に会合を持ったことはないのではなかろうか。しかし、日本人個人としては歴史のこともあるので、この熱心な人々に協力したいのは山々であるが、私の立場で森田哲弥会長との仲介をする訳にもいかず、国際的バランス感覚上大いに悩んだ。結局、瞬時の判断で、先方の申し出通りに森田会長の氏名と一橋大学の住所と、アジア地域の比較会計の研究に取り組んでいる大雄教授の氏名と南山大学の住所を伝えた。同文化圏同士は便利である。こちらは漢字で書けるし、先方も解説なしで理解できる。2人の白人は興味深そうに私達のやりとりを見ていた。この許会長は、自分から直接に森田会長宛の連絡はしない、必ずあなたを経由する、と強く申し出た。共通の社会的文化基盤を持つからこそ、性急な行動には出ないということであろうか。今学会は、JAAの理事クラスの教授がきていないので相談ができない。小説『渚にて』の主人公タワーズのシーンを想い浮かべてしまった (Nevil Shute, *On The Beach*, William Morrow and Company, 1957, Twelfth printing, March 1990, p.186.)

帰る途中で会場の中程に冨塚教授と夫人、河助教授がいるのを発見した。冨塚教授は1年間留学期間延長が認められてもう1年イリノイ大学滞在とのことである。河助教授は留学間近とのことである。なんということだろう。私の心境はいいなとかヨダレが出るとかのレベルではない。ただため息である。特に冨塚教授夫妻に留学生活の話を聞き、本学白木助教授の近況を伝え、しばらく歓談の後ホテルへ帰る。今日の

料理とビールはうまかったが、留学の話は毒であった。

8月12日

起床 6:50。朝食は昨日に同じでホテルのコーヒーショップ、早く済ますためにジュースとマフィンを注文する。記念講演はWyatt会長の友人らしく、会計検査院総裁 (General Comptroller of General Accounting Office) である。深刻な内容である。自分の学生時代にArthurというTAがいたが、今日はそこのその人に招かれまして、といのがジョークといえば唯一のジョークである。笑ったのはWyatt会長だけである。まず、現在の経済は「倒壊経済 (Collapse Economy)」であると結論を押し出してから、初日のWillディレクター以上の深刻な話を展開した。1992年度連邦予算の40%は国債の利子の支払に当てられるということ、クレジットカード破産が増加しており、クレジットカードによる経済が危機的状況に瀕していること、企業倒産が増加しているために昨年1年間のビッグ・シックス(会計事務所)の損害が40億ドルになったこと、ペンション基金が次々と倒産しているために老人の生活が危機に瀕していること、¥と\$, ドイツマルクと\$が日々悪くなっていること、大学の経営が危なくなっていること、等、GAOの資料総ざらいで、アメリカ経済の倒壊寸前を強く訴えた。そこで対策ということになるのだが、会計職業の重要性を訴えるのみである。自らの総裁の地位から考えて倒壊経済を立て直すことが至難の術だということを誰より最も知っているから当然である。結論は「Our accounting profession may continue.」である。会場はドッチラケで、前の方でパチパチという程度の拍手である。

午後からは総会であるが、もう疲れはててしまった。公式に派遣された人なら、絶対に出ていかなければならない所だが、私にとっての緊急性はない。時間は2時を回っているの、受付台の前にあるポスター「アメリカ会計学会、歓迎、ワシントンDC」をもらう。河助教授に

も「これを研究室に貼っておくと学生が見るでしょ。学生にはAAAなどは遠いことに思っているけれども、この一枚でいっぺんにその精神的距離が縮まるんですよ。」と勧める。結局、このポスターは2枚とも名古屋地区へ来ることになった。河助教授は、この後15日まで同じホテルに滞在し、16日にテキサス・オースチンへ向かうとのこと。無事の帰国を誓い合い、地下鉄駅で写真を撮る。

結局、国際会計教育会議の関係者には会えなかったの、この12日にも\$85という高いホテルに泊まる必要はないが、当日の午後のキャンセルはできず、ぜいたくな1泊をすることになる。今更、議会図書館にも行けず、ホテルでこれまでの資料を整理する。アメリカ滞在もわずかあと4日である。

6階はルームメイキングの最中である。私の部屋の前にメイド道具一式を積んだカートが止まっているので、向かいの部屋のドアにいた若い黒人のメイドに「May I come in, 624?」と尋ねたら、「Yes, sir. Thank you very much to have tip everyday.」と礼を言われた。スリムで小柄で美人でお作法の良いメイドである。私も返して「You are welcome. Thank you to make my room clean and beautiful everyday.」と言ってあげた。このように、必ず一声の習慣は貴重だ。相手が安心するし、こちらは楽しいし、最終的には身の安全につながる。

資料を整理し、AAA関係はザッと目を通し、小型の大会目録のみ残して、他は別送用バッグに詰める。CBU関係の資料もコピーのみ残しバッグに詰める。お粥用の小型ソースパンと無駄になったフロッピーを入れると、満杯でパンパンになった。これだけなくなれば後の移動は楽になる。早速、Marriott Crystal Gateway Hotel前の郵便局へ行くが、ここは17:00で閉店であり、無駄足となった。

今日がEmbassy Row Hotelの最終日であることに気付く。ホテルの周囲をまったく知らずに出て行くのは無情であるから、散歩がてらに夕食場所を探す。色々な店があるが、まともな客

が入っているのはBurger Kingである。Chicken Salad \$3.29の大きなパックを買ってホテルに戻る。これで夕食と明日の朝食はOKである。嬉しいものだ。ゆっくりと風呂に入ってTVを見て寝る、23:20。

8月13日

起床7:30。昨日のサラダの残りと紅茶ティーバッグで朝食である。チップ\$1とガムを枕に置き、Dupont Circle METRO駅へ向かう。Union Station駅の横にギリシャ神殿風の巨大な郵便局があるのを思い出したので、Crystal City行きは中止して、Union Stationで下車。郵便局は駅と反対側にある。コンテナボックスを売ってくれというと、後ろからUnited States Federal Supplyの宛先が貼ってある段ボールをくれた。町の郵便代行屋ならこれで\$5とられるところだ。保険請求額\$440で船便扱い料金が\$57弱である。ホッと一息でUnion Stationの地下でアイスティーを飲む。視線を感じてフッと眼をやると、かなり遠くであわてて顔をそらす日本人男子学生がいる。いやな感じである。スマイル・スマイルの方が楽しいし安全なのに。

Union Stationのコンコースには、天井から「歓迎アメリカ心理学会 (Welcome American Psychology Association)」という大きな赤い垂れ幕が3本懸かっている。この学会は、AAAの後でSheraton Washington Hotelで開催される学会である。AAAの時はこんな垂れ幕はなかったし、TVのローカルニュースでも報道されなかったが、このアメリカ心理学会は、CNNのローカルニュースで報道されていた。AAAは日本で考えられている程の力はないのかも知れない。

地下のトンネルから、別館Adams Bldgへ行くつもりで、道に迷い、Adams Bldgの書庫に入ってしまった。書庫は膨大で、天井の低い階ごとにギッシリと本が詰まった書架が先が霞むほどの距離で並んでいる。あせってあちこちへと行くほどに、迷ってしまう。元の場所へ戻る

うとしている時に、Reshelving Cartを押した黒人の少女に「どこへ行くの。」と尋ねられた。結局、この少女にAdams BldgのMain Reading Roomまで連れていってもらったのだが、彼女も、4回ほど「This Japanese gentleman……」と言いながら尋ね尋ねだった。トンネル経由でのAdams Bldgへの行き方は次のとおりである。

Madison Bldgの地下鉄寄りの入り口より入館後直進、突き当たりを右へ進み、出口ガラスドア20m手前を左折、コーヒーシップと自動販売機コーナーを過ぎて直進、突き当たりを右へ、坂を降りきって突き当たり10m手前で右折、エレベーターで5階へ上り、Science/Social Reading Roomへ。

8日に請求した3冊と、US Dept of Housing and…… *Life Cycle Cost Analysis for Utility Combinations*. (Call # TH7225.L5.1985) を頼む。3冊は今日もNot on Shelfであり、今日新たな請求分はVerify Call No.だそうだ。(Message: TH7225.L5.No.5 is *Russian Language Books on Engineering*)。UCBもとんだ所で馬脚である。もうすることがないので、機械検索で、Dell'Isolaの資料一覧に出ていたDOD Directive 5000なる文書を探す。端末は昨年より一新され、キーボード入力とは別にモニター画面のタッチパネル方式も可能になっている。このタッチパネルはわが国の銀行設置のものよりもはるかに性能がよく、シャープペンの先をわずかに接しただけで作動する。更に、検索結果を3.5インチ・フロッピーに落とすこともできるらしい。印刷できるのは昨年に同じだが、印刷速度は早くなりきれいになっている。この文書番号はすぐ発見できた。しかし、5000.1から順に見ていっても、LCCに関連するアブストラクトが見当たらない。不思議なことである。Dell'Isolaの馬脚も見つけた。

あの3冊は不思議だ。誰かがここへ通って独占するか、館外借出の権限を持つ誰かが持ち出しているかである。司書に事情を話し、Search

を依頼すると、この小錦関の妹みたいなデブプリした黒人司書は黒人なまり丸だしの言葉で「Someone else is working same with you.」とそっけない。UCBと同様の体感による成果があったことに感動して、Embassy Row Hotelに戻りチェックアウトして、Ramada Hotel Rockvilleへ向かう。

Rockville METRO/AMTRAK駅は地上線部分の駅である。複々線であり、南側2線がMETROである。南口で電話を掛けようとしていると、黒人のホームレスが「Eighty cents.」と手を出す。「I'm calling phone now. I'm short of changes.」と言ってダイムを一枚渡す。ホテルでは、「Take taxi. Four dollar, five minutes.」というが、私はタクシーはこりごりなので、シャトル・バン・サービスをするとDirectoryに書いてあるではないかと言ってねばる。まもなく(1時間後)、バンがやってくる。静かな駅である。METRO電車の音が大きく響くし、まわりのバスを待つ人々の声をはっきりと聞こえる。ユウカリの樹精らしい臭いが甘くほんのりと漂ってくる。ユウカリの森林地帯でも近くにあるのだろうか。

ホテル・フロントは改装中であり、中国人男女が2人で受付である。私は、「Hello, how are you? Takemori.」といってRamada Business Cardと予約番号を示す。女性の方に、レストランは閉まっているので開店時間を聞くと、土曜まで改装工事とのこと。自分は、今日は昼抜きなので腹が減っている。どこかwalking distanceで食べれる店はないかと尋ねると、Japanese restaurantがあるという。いや、あれは高いからだめだ、安いChinese restaurantはどうかと聞くと、あるという。電話を掛けて中国語でしばらく話をしていたと思ったら、連れていってくれるという。男性が運転、チェン君とのこと、女性も同乗、感激である。小さなマーケットでビールとサンドイッチ、中華料理店で持ち帰り弁当Beef Fried Riceを買う。これは嬉しかった。胃袋も感激である。

ここでは、C-Span TVは放送していない。

CNNを見て過ごす。ホテル換えの初日の夕食後に必ずしていた洗濯はもうしない。残り3日であるから、今ある下着Yシャツを全部使って、後は家で洗濯すればよいのだ。

8月14日

起床6:30、昨日の中華料理店の持ち帰り弁当の残りと紅茶で朝食。METRO駅行きのシャトルは、9:00からとのことなので、USA Todayを読みながら暇つぶしをする。出かけて行く客は大半が自家用車であり、徒歩客は誰もシャトルをあてにはしないでタクシーを呼んでどこかへ出かけていく。結局1時間待たされてRockville METRO駅へ。今回の運転手にも路線バス (Public transportation from the hotel to METRO station) のことを尋ねるとDRIVE ONというモントゴメリー郡営バスがあるという。帰りはこのバスで帰ることにして、最終便の少し前の18:10発をメモする。

今日は、昨年無念にも引き返した会計検査院 (General Accounting Office) 図書館調査である。Rockvilleから乗換なしでChinatown-Gallery Place駅で下車し、昨年、下見済みのエレベーターで道路へ出る。会計検査院の西端にあった公園は、樹皮の薄片を敷き詰めたきれいな公園になっており、白人の子供が10名程と保母さんらしい白人女性が2名で走り回ってゲームをしている。この公園は院内託児所のようなのである。玄関入口は、部外者は階段の中央を登りSecurity Check台へ行き、訪問先の確認と荷物検査を受ける。部内者は階段左側の自動改札機を通る。私はパスポートを示し、勤務先を聞かれた後、用件を聞かれた。ノートを見せると「Technical Library, seventh floor. Take the elevator.」と言われた。

会計検査院図書館は、7016?号室の刊行物図書館 (Technical Library) と7056号室の法令図書館 (Law Library) に分かれている。私は、次の資料を探したが、発見できなかった。

Life Cycle Cost Estimating
(UC263.U54.1974)

Life Cycle Costing Workbook

(JK1673.A545.1977)

目指す資料はなかったが、次の資料を書架で発見した。*GA092-1

Life Cycle Costing Procurement Guide

(JK1673.A5)

DOD Instruction 7041.3,26, February 1969

(Shelved in GAOLL)

Life Cycle Costing for Design Professionals

(TH435.D4)

Value Engineering in the Construction Industry (TH435.D43)*Manufacturing Cost Estimating*

(TS167.M35)

Concurrent Design of Product Process

(TS171.C655)

会計検査院図書館も、アメリカである。外来の部外者も部内者も平等に扱ってくれる。特に、コピー機は素晴らしい。ストロボのような光がピカッと光るとコピーの出来上がりである。料金も感激の値段である。司書も親切である。『国防総省通達第7041.3号』は法令図書館で参照する。旧ソ連のシュワルナゼ外相のような司書にメモを見せると、「Sure, come this way.」と奥に案内してくれた。ここは、広い1室を書類キャビネットでいくつかの区画に分けてあり、各区画が図書館というよりも、文化系研究所の研究室を思わせる。目指す資料は、すぐに発見できた。高さ25cm、厚さ7cmほどの分厚いファイル・バインダーに綴じてあるが、中身はB5判30枚程度である。ところが、他のDOD文書は新品同様ののに、これだけが擦り切れてボロボロの状態である。発表から20年も経過している文書が現在も実務的に参照されているのは不自然であるから、研究資料としての重要性を示すものであろう。専門の秘書や司書がコピーしたのではない証拠に付録の各種計算表の順序がメチャメチャである。だから、司書にとっては「また来たな、今度は日本人だ。」という感じなのであろう。このような役所の部門が資料を公開してくれるのはありがたい。食堂は3

階にあるが、13:00で食事は終わり、後は軽食しかなくなるので注意せねばならない。食堂の隅の方では、若い黒人の男女が20名程談笑している。ほかからでにぎやかで、まるでアフリカの村祭である。

受付では、GPOとGAOを間違っ入ろうとした白人の中年男性とガードウーマンが大声で話している。彼の車に乗せてもらってGPO Bookstoreへ行く。Chuckというのだそう。

「なぜ、日本から来て研究してるんだい。日本の方が進んでいるだろう。この本田はいいぞ。アメ車よりずっといい。」などと言われると日本は工業先進国で研究後進国ですとも言えず、困る。アメリカでの資料の公開性を褒めて納得してもらった。GPO BookstoreはUnion Stationそばの郵便局から斜め右方向のレンガ造りのビル1階にあった。教育関係1点、国際投資関係2点を購入、合計\$20.00である。古いLCC関係の資料は品切れになっていて買えなかった。私の資料を見てChuckは、「You will be an adviser to the Board.」と言って大笑いし、分かれた。今回の旅行目的は着々と達成できている。腹八分の満足でUnion Stationでコーヒーを飲む。

Capitol South駅は雨である。Rockvilleでは、さほどの降りではなかったので傘なしである。急いで本館Jefferson Bldgに入る、Reading Room, Rqom 109, Desk #151, 16:20。昨日のLCC関係3点を閲覧申請するが、20~50分で「Not on shelf」の答である。私は、高いドームの丸い天井を見上げて笑ってしまった。何ということだ。確実に誰かがLCCを研究している。この1週間の間、議会図書館に通い詰めてジッと研究している人がいる。何という感激だろう。無理してアメリカへ来てよかった。この実感は時間的・経済的には無駄だが、私の研究上の経験としては貴重だ。この大陸の東西の端で同じテーマを研究している人がいるのだ。そして、太平洋の彼方で私である。17:00過ぎてから頻繁にパトロールを始めた黒人のガードマンが「変な奴だ。」という顔で私を見ているが、私

は一種の研究成果を得た満足で一杯なのである。

DOD Directive 5000.1を再び端末で探るが、満足するアブストラクトは出てこない。今回は、DOD Directive 5000.1の探究は、これで終わりにある。

Dell'Isolaが個人としてLCCを世界で最初に提唱したという、Eugen L. Grantを検索すると、20 itemsが表示される。(*?LOC92-1)

Engineering Economy 1968～で検索すると、ATTの文献が出る。(*?LOC92-2)

この本を借りだして、目次を一覧すると、管理会計の体系がしっかりしているのでコピーする。第10章「インフレーションと資金のコスト」では、私がこの1年間考えていた将来費用の割引方法が3法提案されている。通説は、ここでいう第2法であり、私が通説に対して対案としていた方法が第1法に相当することが分かる。まずは成果である。

Larry D. Milesを検索すると、no itemsである。(*?LOC92-3)

*Life Cycle Cost Analysis for Utility Combinations*の図書番号確認をするが、該当図書はない。(*?LOC92-4)

Carlson, Fred T.で検索し 該当名はない。(*?LOC92-5)

これ以上の調査は不可能であるので本日終了、18:40。

帰りは、Metro Center駅で夕食の買いだし後、Rockville METROからDRIVE ONバスであるが、バスの中にある時刻表を見て驚いた。土曜と日曜のダイヤがないのだ。夕食は、サラダと味のないマフィンとジュースである。ゆっくりと風呂に入る。今回の旅行の反省をするつもりが全然頭が動かない。もうすぐ帰国という実感もない。明日はAMTRAKでニューヨークへ行くことにする。

22:00頃、非常ベルが鳴る。スニーカーをはき、Yシャツに背広を掛け、パスポート、財布、飛行機キップを確認して、ホテルからの案内を待つ。まもなく、非常ベルは鳴らなくなり、何

の放送もないので、こちらの警戒体制も解除する。緊張の一瞬であったが、一人旅であるから、過剰なほど準備してちょうどよいのだ。

8月15日

起床5:30。6:00にフロントからタクシーを呼ぶが待ち時間が22分というノンビリさである。しかし、時々横殴りの強い雨が降るRockville METRO/AMTRAK駅は、人気がまるでない。AMTRAK時刻表は、土曜と日曜の欄がなく、土日運休である。METRO駅は始発時間をとくに過ぎているのにシャッターは閉じたままである。雨の音と風の音だけのあきれた静寂さである。ジャンパーを着た黒人の青年が私の方へ向かってくるので、すかさず、「Good morning, how are you today?」と言ってやった。先方だって私が恐いのである。彼は、Union Stationで7:30から仕事があるので焦っているのであった。私も7:22発ボストン行きにのることができなくて困っていることを言ってやった。

私はつくづく考えてしまった。会社が土日曜休業というのは分かる。しかし、鉄道とバスまで休みというのは何という文化だろう。客がいなか少ないなら交通機関だって休んだ方が能率的である。運転手だってその他の従業員だって家族があり、レクリエーションをしたいだろう。それなら、土日に休むが自然というものだろう。しかし、土日曜日に都心やら郊外やらへ遊びに行く人々はどうするのだろうか。結論は遊びには行かないことである。自宅で趣味やら、TVやら、家族での遊びをすればよいのである。外に出た場合は近所をぶらつけばよいのである。本を読んでもよい。ユーカリの森の中のおとぎの家のような自宅のペンキ塗りでも、確かに外に行かなくても、休日を過ごす方法はいくらでもありそうである。

新聞だって安い。USA Todayが\$25であり、The New York Timesが\$50である。他にも、無料のローカル・ペーパーがある。これなら、慣れれば、暇はいくらでもつぶせそうである。

雨の中を1時間半も待っていると体がすっかり冷え込んでしまう。背広を着てはいるが、夏服は寒い。

METRO駅は8:00にシャッターが開いた。始発電車は8:20である。地元の人をよく知っているもので、8:15頃には、ホームに人が多くなった。Union Stationでは、出札カウンターの左端がクレジット・カード利用の乗車券自販機になっているので利用する。カードを入れると、いきなり、予約のあるなしと行き先を聞いてくる。次に10:20発の乗車希望列車をセミ・タッチパネルで答えると、飛行機の搭乗券(Boarding Pass)そっくりの\$62.00の乗車券とクレジット・カードが返ってくる。全体に要した時間は約20秒ほどで能率的である。暗号番号を聞くでなし、あっさりしたものである。JR東海の機械を思い出す。あれは専用のカードが必要だが、こちらはMASTER, VISA, American Expressが使える、JR東海よりもはるかによい。日本でも、万札用の新幹線自由席自動販売機が普及しているが、このようなクレジット・カード方式の自販機も検討してほしいものだ。ついでに、回数券が出ればもっとよい。

2両目が比較的空いているので席を取る。何と私の前が日本人のグループと家族連れだった。人種が違うと、遠慮して席が空くものらしい。列車は7年前と同じで、愛想のよい黒人の車掌が検札し、駅毎に大声で次の駅名をどなって来る。車窓は美しい風景の連続である。海岸線を走るために、なだらかな丘と森と、大きな入江や湖が続く。大きな駅には、2~5編成のAMTRAK通勤列車が待避線にたまっている。どの列車も動く気配はない。路線バスを電車にしたような通勤用の気動車の車庫も満杯であり、今日は全線運休のようである。羨ましい光景である。

沿線風景はラスト・ベルト地帯である。割れたガラス窓の工場、赤いレンガの工場、レンガ造りでしかも高いレンガのエントツが立っている工場、周囲が雑草で覆われている工場、悲惨な生産現場がフィラデルフィアからニューヨー

クまでエンエンと続く。これでは、いくらエリート層の人々が原価計算やら原価管理の新方式を研究しても、基盤が崩れているのではどうしようもない。日本の休日の工場地帯なら、清掃されたスレートの壁、駐車場の磨きあげられたトラックの群れ、掃き清められた道路、明るい水銀灯というのが常識であるのに、と思う。

定時13:45でNew York Penn Station到着。今回、南側から入ったので分かったが、NYP駅は南側から見ると、地下1階を溝掘りにしてその上に駅を造っている構造である。従って、北側から地下鉄線で入線する時のような恐さはない。時刻表にある、早朝到着して9時位まで寝ていてよい寝台車も酸欠の心配はないことが分かり、機会があったら利用しようと思う。外に出ると、小雨であり、ビルの上層は雲に隠れている。この混雑はワシントンの比ではない。真正銘の大都会だ。私は完全にお登りさんである。NYP駅の前がRamada Hotelである。この立地はいつか使える。キャフテリア式の中華料理店に入る。腹が一杯になってしまう。帰りの列車を確認すると、あまり時間がないので、地下鉄で世界貿易センターへ行くことにする。窓口で\$1.25 Roundtripという切符(コイン)を求め、急行E列車に乗車。こじきのお婆さんによれば、このRoundtripというのは、どこへでも行けるという意味であって、何回でも乗れるという意味ではないそうだ。ニューヨークで地下鉄に乗ったのは初めてだが、危険は感じない。危険は金持ち、若い女性、人前での財布出し、上等な服装と持ち物の人々に降りかかるのであることが分かっているからだ。危険を避けるためには、質素なシャツとズボン、貧相なカバン、そして、駅のホームであっても明るい場所を選び、近づく人へのスマイルである。世界貿易センターに来てはみたが、観光者用のエンターテインメント施設はなく、巨大なビルであり、展望台や高層部分のレストランに行かねば意味はない。その展望台が雲の中では仕方ないので、地下の商店街で本屋に入り、子供TV番組の本、Tank Engine Thomas (『機関車トーマス』)を買

う、ゆきえのおみやげである。帰りの飛行機のリコンファームをする。ホテルの電話を聞かれた時、「急ぎのお客様に席を譲って下さいませんか。」を期待した。大学図書館へも寄リたかったが、短時間の滞在では無理なので次回とする。NYP駅には切符自販機はなく、すべて防弾ガラス越しの対面販売である。\$ 62.00で帰りの切符購入。バスなら、同時刻に発車しても、Union Station Bus Terminal着が21:30であり、ホテルまでの道が危ないので今回は見送りである。16:20NYP発19:44Union Station着。

ホテルへ帰ってから、Union StationでもらってきたAMTRAKの営業案内と全国路線案内を見た。すばらしい。安くて、豪華で、安全（墜落の心配がない）で、アメリカの雄大な景色が目の前で楽しめる。次はどこへ行こうかなと当てもないのにわくわくしてしまった。

8月16日

5:30に目覚めた後に、再び睡眠、起床9:40。昨日NYP駅で買ったスイカ、マフィン、ジュースの残りで食事。今日はComplementaryのUSA Todayはない。日曜休刊なのだろうか。有り得ることだ。西モントゴメリー通りを歩いてRockville METRO駅へ、11:00—11:45。静かな森の中に点々と白いおとぎの国の建物のような家が建っている。Unitedからキップを譲れという電話があればいつでも譲るのだから、帰りたくないなあ、と思う。Rockville駅周辺で1軒だけ開いていたコーヒーショップ(Larry's)は夜勤明けらしい黒人で満員だ。皆がうつろな眼でジッと私を見ている。店に入りかけた白人のおじいさんが入るのを止めて、店の外で新聞を読み始めた。慣れないとあの光景はゾッとするから、理解できる。しかし黒人にとっては感じ悪いじじいめということになるう。

議会図書館は本日は13:00開館だから、Metro Center駅で下車して、マクドナルドへ入る、12:55。店内はカウンターが全員黒人、客は白

黒半々である。マフィン\$ 1.00にコーヒー・スモール\$ 80である。円の給料をもらっている限り、アメリカは住みよい国だ。

図書閲覧票(Slip)の裏に次の注意があったので、別館(Adams Bldg)へ直行する、席番号618, 13:20。

図書番号別の閲覧場所(下記で請求すると早く閲覧できる)

BCDEFNP…………… 本館 (Jefferson Bldg;the Main Rdg Room)

AGHJLQRSTUVZ……… 別館 (Adams Bldg;the Center Room, 5th floor.)

今日は、かのX君は休みらしい。
Report:Design-to-Cost, Department of Defense:Report of life Cycle Cost EstimatingおよびDesign to Costが次々として出てきた。ただし、Engineering Economy (1952) は今日もNot on shelfであった。

コピーを終わって席へ戻ろうとすると、昨日の返却図書がReshelving Cartに積まれたままになっている。研究開発管理を研究している誰かが返却したものらしく、研究開発管理の資料で満載である。熱心な人らしくよく集めてある。そのうち、めばしい2点をメモする。次回の来館の時に閲覧することにする。*?LOC92-6

これで、今回の調査予定事項は終了した。まずは、満足というものである。16:20。帰りは、トンネル経由でCapitol South駅へ出る。帰りは迷うことなくスンナリと迷路から出られるようだ。直子の友人のおみやげも頼まれたので、METROを途中下車してSheraton Washington Hotelへ行く。同ホテルは、アメリカ心理学会が終わった直後のようで、皆がホッとした表情なのは、AAAの最終日と感じが似ている。しかし外に出て誰も名札を外していない。学会員であることに誇りを持っているのであろうか。皆の雰囲気もAAAとは違いゆったりとしている。しかも、決定的な違いは学会のバッグである。AAAのは、ビニール製だったが、こちらは、スエード地の皮バッグである。AAAは私が参加した限り、布製や皮製のバッグはな

かった。昨年の75周年記念大会でも、記念のワッペンを貼ったビニール製バッグだった。私は「井の中の蛙」なのかもしれない。

Rockville METRO駅のホームから、明朝のダレス行きエアポート・シャトルを予約し、10月5・6日のホテルを予約する。(The Pavilion Hotel)。\$85で高いがスイート・ルームでよい部屋だそう。豪華な気分が国際会計教育会議に臨むのもいいだろう。

Rockville METRO駅から、ホテルへの道順は簡単である。スカイウォークを端まで歩き、地上階へ降りる。そのまま、直進すると、右に噴水池がある登り傾斜のレンガ張りの広場があるので直進する。そのまま、直進すると、左に郵便局がある交差点があるので横断して直進する。そのまま、道路の右側の歩道をしばらく直進すると、下り坂の右にハングル文字の看板がある。すぐに、高速道路を横切る橋があるので直進。橋が終わると歩道がないので、100mほど気を付けて直進。右の丘がRamada Hotel Rockvilleである。今回は、郵便局近くのピザ屋で、ピザ・バーガーをテイクアウトで、バドワイザー・スモールを店で飲む。昨年の打上デイナーと比べると貧弱だが、金が安いのでよい。

このホテルは、プールが5つ、テニスコートが4面、敷地内にキャンプやバーベキューができる森林公園を擁する、都市郊外立地のリゾート・ホテルなのだそう。単に宿泊するだけでなく、何日も宿泊しては施設を楽しむのが、このホテルの本来の利用らしい。主人はワシントンで仕事、奥さんと子供はここでゆっくりとレジャーというのがどうも理想的利用形態らしい。ニュージャージーのRamada Hotel Montvaleもそうだった。

荷物をまとめて、パジャマをバッグにつめれば出発できるように用意して就寝、23:30。

8月17日

起床5:00。てきぱきと支度をしたつもりだったが、部屋を出たのが5:15である。黒人のフロントマンにチェックアウトをしてもらっ

ている最中、小型バンがやってきた。5:34のはずが5:18である。いいかげんなものだ。危うく置いていかれる所だった。乗客は後部に白人の老夫婦、私は助手席である。運転手は、少々年増の細身のスペイン系の女性である。日本人客はあまり乗せたことがないらしい。話の要領が得ない。日本人はリッチだから、エアポート・シャトルなど乗らずにタクシーを使ったり、エアポート・ホテルで前泊するのだろう。日本では、失業が問題にはなっておらず、職業安定所のドアの前には、行列ができたことがない、という「Oh! can't believe it.」と驚きであった。空港近くになって、家族はあるか、奥さん連れてStatesに来るか尋ねられたので、「Fat wife, crowded three kids and my love, this is my family. I'll take my family to the United States in 1994 when we have a convention in New York City.」と言ったら、会社の名刺を出して、その時はこの車を使ってくれとのことだった。

ダレス空港で出国手続きを済ませて、指定されたゲートで待っていると、いきなり日本語だけの放送が始まった。「この度はダレス国際空港を御利用戴きありがとうございます。ただいま、空港内で難民救援と称して募金活動を行っている者がおりますが、メトロ空港公団および当空港事務所はこれらの団体を一切承認および後援していません。くれぐれも御注意下さい。」先ほど高校生の団体が20名程先生と旅行社の添乗員と共に出国手続きをしていたから、彼女達用の放送のようである。それにしても驚いた。

ゲートA10の案内には、いつになっても3608便が出てこない。グランド・ホステスに質問したら、「It's wrong. Go to gate All.」である。訂正放送もなく、案内もない。うかうかできない国である。Newarkまでは双発の小型機だ。途中ですごいエアポケットがあり、一瞬のうちに私はコーヒーを天井にたたきつけられてしまっ、臨席の日本人学生風の青年のシャツを汚してしまった。\$10の損害賠償であった。

Newark空港のゲート17は、成田行きの待機

のため、7割位が日本人である。搭乗前や搭乗直後に今まで必ずあった席譲れの放送を待つが、今回に限って全然ない。帰りたい時には放送があり、帰りたくない時には放送がない。運命は皮肉に回転するものである。やっと乗ったUA803のジャンボ・ジェットは荷物積み込み込みが時間がかかっているとか、給油が予定通り進まないとか、動かない。ベルト着用サインの中をトイレに行って出たら、外で白人のスケジュールが待っている。眼があったから、いつものとおりに、「How are you? Long time to re-fill fuel. Is it because this plane is too hungry to take lunch?」とジョークを言ってやった。彼女は「Yes. it's noon. Maybe.」と言ってハハと笑ったので、立ち話を始めた。途中で席を聞かれたので席番号を言って、金があれば、前の方の席とか2階席とかさという、彼女は顔をしかめて「Oh, no. They are too expensive, crazy. I can't pay personally. Economy seats are safe, it's sure. You fly safe in cheap price. They pay much money to die quick.」と言う。そして、高笑いである。話がこの調子で延々と続くものだから、周囲の日本人男性達がイヤな眼付きで見る。

この安くて安全な41E席であるが、これはビデオ上映スクリーンの前である。最悪の席である。左(41D)席は団体からはみ出したような落つきはらったOL風で、右隣の2人は日本人の女と白人の男である。この白人の日本語がやたらとうまい。白人が本来英語で話す内容をあざやかな日本語でやるものだから、甘くて気持ち悪くてしかたない。この二人が英語で話していても甘ったるくてしかたない程度だから、日本語の場合の私の迷惑は我慢の限度を越えているのである。大体、日本人はいくらほれていても一晩中、「僕は君を愛しているよ。」チュッなんて言ったりやったりはしない。まったく寝られたものではない。いい迷惑のMidnight Love Flightである。ウトウトの中でもしっかりと機内免税販売のChivas Regal \$ 20を買う。

東部時間 8月17日 1:25 (日本時間 8月17日

14:25) に定時成田空港到着である。外が全然見えないので、気がついたら日本でした、という感じである。

第Ⅱ部 検索等による研究資料 (検索機の表示どおり。書誌名のみイタリック体に変更。)

*?UCB92-1/Gordon,Jの82名中の42番目を検索する。

- [167] Gordon,Robert Aaron
Higher Education for business,
 by Gordon and James Edwin
 Howell
 New York, Columbia University
 Press,1959.
 Educ/Psych HF1131.G66
 Bus & Econ HF1131.G66
 IIRL HF1131.G66

*?UCB92-2/Howell,Jでは62件が検索された。
 22番目のHowell,Jの3番目の文献

- [3] Howell,James Edwin
*Mathematical analysis for business
 decisions*
 [by] James E.Howell [and] Daniel
 Teichrow, Rev'd
 Homewood,Ill.,R.D.Irwin,1971
 Bus & Econ HF5695.H66 1971

*?UCB92-6/education of Americanの11件中の1番目を検索する。

- [1] Pierson,Frank Cook,1911-
*The Education of American
 Businessmen:a study of university-col-
 lege programs in business administra-
 tion,*
 by ...
 New York, McGraw-Hill,1959.
 Carnegie Series in American
 Education.
 Bus & Econ HF1131.P54
 Library has : 2 copies

*?UCB92-8/Accounting historians journalでは
 1項目が検索されている。

- [1] *The Accounting historians journal.*
 [University, Ala., Academy of
 Accounting Historians]
 continues : *Accounting Historian*
 Bus & Econ HF5601.A34
 Shelved : Current unbound
 issues in Reading Room
 Library has : 13 (spring
 1986) -16 (1989) -
- *?UCB92-9/life cycle costでは14項目が検索されている。
- [2] *Life-cycle cost analysis for utility combinations handbook:departmental staff and program participants.*
 [Washington, D.C.?] :
 U.S.Dept. of Housing and Urban
 Development, Office of Public and
 Indian Housing, 1985.
 United States. Dept of Housing
 and Urban Development.
 Handbook;7418.1
 Environ Dsgn TH7225.L5 1985
 (この番号は間違いであることが議
 会図書館で指摘された)
- [6] United States. General Account-
 ing Office.
*Life cycle cost estimating-its status
 and potential use in major weapon sys-
 tem acquisitions.* Department of De-
 fense : report...
 [Washington : U.S.General
 Accounting Office, 1974]
 Gov't Docs UC263.U54 1974a
- [8] *Life cycle costing, a guide for select-
 ing energy conservation projects for
 public buildings*
 /Rosalie T. Ruegg... [et al.].
 [Washington] : U.S.Dept. of
 Commerce, National Bureau of
 Standards, 1978.
 NBS building science series;113.
- [9] Environ Dsgn TH7.U5 no.113
 Dell'Isola, Alphonse J.
*Life-cycle costing for design profes-
 sionals*
 /Alphonse J. Dell'Isola, Stephen J.
 Kirk
 New York : McGraw-Hill, c1981.
 Environ Dsgn TH435.D358
 Dhillon, B.S.
*Life cycle costing: techniques, mod-
 els, and applications*
 /by B.S. Dillon.
 New York : Gordon and Breach
 Science Publishers, c1989.
 Bus & Econ TA177.7.D35 1989
 United States. Federal Supply
 Service.
*Life cycle costing workbook: a guide
 for the implementation of life cycle
 costing in the Federal Supply Service,
 General...*
 Washington : the Service, 1977.
 Gov't Docs JK1673.A545 1977
 (議会図書館で8月8, 13, 14,
 16日閲覧不能)
- [11] [12] [14] Ruegg, Rosalie T.
*Recommended practice for measuring
 life-cycle costs for buildings and
 building systems*
 /Rosalie T. Ruegg, Stephen R....
 Washington, D.C. : Building Eco-
 nomics and Regulatory Technology
 Division, Center for Building
 Technology, National Engineering
 Laboratory, National Bureau of
 Standards, [1980]. NBSIR;80-2040
 Environ Dsgn TH437.R8 1980
- *?UCB92-10/design to costでは3項目が検索された。
- [1] Michaels, Jack V.
Design to cost

- /Jack V. Michaels, William P. Wood.
New York : Wiley. c1989.
(Series : New-dimensions in engineering)
Engineering TS167.M531 1989
(この本は行方不明, 司書調査を約する)
- [2] Symposium on Design to Cost and Life Cycle Cost (1980 : Amsterdam, Netherlands)
Design to cost and life cycle cost : papers presented at the Flight Mechanics Panel Symposium on Design to cost and...
Nevilly sur Seine, France : Advisory Group for Aerospace Research & Development, 1980.
AGARD conference proceedings; no. 289.
Engineering TL500.N6.C6 no. 289
- [3] United States, Task Force on Reducing Costs of Defense Systems Acquisition Report : "*Design-to-Cost, commercial practise vs. Department of Defense practice.*"
Washington, Office of the Director of Defense Research and Engineering ; for sale by the Supt. of Docs., U.S. Govt. Print. Off., 1973.
Gov't Docs UC263.U58 1973
- *?UCB92-11/Rueggでは35人が検索され, 24番目のRueggで絞ると9項目が検索される。
- [1] Ruegg, Rosalie T.
Building economics: theory and practice
/Rosalie T. Ruegg and Harold E. Marshal (1990)
New York, NY : Van Nostrand Reinhold, c1990.
- Environ Dsgn TH437.R88 1990
checked out : Due : 09/03/92
- *?UCB92-13/defenseでは500以上の項目が検索され, 全体中handbookはこれのみ。
- [2] *Defense & foreign affairs handbook.*
Alexadria, VA. [etc],
International Media Corporation [etc.]
Main stack VA10.D43
Shelved : Latest vol. (1990/91)
in Reference and Bibliography
- *?UCB92-14/Heyelでは3人が検索され, 2番目のHeyel (1908-) で絞ると18項目が検索される。
- Heyel, Carl, ed
The Foreman's Handbook
New York, London : McGraw-Hill, 1943
Main stack TS155.H42
Storage number : \$B 272 337
- The encyclopedia of management,*
1963
Bus & Econ HD19.H4
- The encyclopedia of management,*
1973
Bus & Econ HD19.H4, 1973
- The encyclopedia of management*
third ed., 1982
Bus & Econ HD30.15.E49.1982
- *?UCB92-15/Fabryckyでは2項目が検索されている。
- [7] Fabrycky, Wolter J. 1932-
Life cycle cost and economic analysis
/Wolter J. Fabrycky, Benjamin S. Blanchard.
Englewood Cliffs, NJ : Prentice-Hall, c1991.
Prentice-Hall int'l series in in-

- dustrial and systems engineering.
 Bus & Econ HD47.4.F33 1991
 *?UCB92-16/Blanchardでは213項目が検索され、Blanchard, Benjaminで絞る。
- [10] Blanchard, Benjamin S. [75] *Systems engineering and analysis*
 /Benjamin S. Blanchard; Wolter J. Fabrycky
 Englewood Cliffs, NJ : Prentice-Hall c1981
 Prentice-Hall int'l series in industrial and systems engineering.
 Engineering TA168.B58
 checked out : due 08/17/92
 (借り主の名は教えられないとのこと)
- *?UCB92-17/OECDでは75件が検索された。
- [28] OECD Japan Seminar on Higher Education [1984 : Hiroshima-shi, Japan and Tokyo, Japan] [2]
The Changing Functions of higher education : implications for innovation : reports from the 1984 OECD/Japan Seminar on...
 Hiroshima : Research Institute for Higher Education. Hiroshima University, 1984 [i.e. 1985]
 Research Institute for Higher Education International Seminar Series
 Educ/Psych LB (CB?) 2301.033 1984
- [29] *OECD/Japan Seminar on Higher Education and the How of Foreign Students* [1988; Hiroshima-shi, Japan]
 East Asian LB2375.U34 1988
 Storage number : B3 539 319
- [62-4] Conference on Social Objectives in Educational Planning [1965 : Paris]
Social Objectives in educational planning.
 Paris : OECD Study Group in the Economics of Education.
 Gov't Docs LC191.07
 OECD Workshop on the Management of Innovation in Education, St. John's College, Cambridge, 1969.
The Management of Innovation in education; report on a workshop held at St. John's College. Cambridge, June 29th to July [Paris] OECD [1977]
 Educ/Psych LC2605.014 1969
 *?UCB92-18/elementary accountingでは8件が検索された。
- [1] Arnold W. Johnson
Elementary accounting, 1946
 Main stack HF5635.J65 1946
 storage number : \$B 100 243
 Scovill, Hiram T.
Elementary accounting, 1924-26
 Main stack HF5635.S43
 v1 storage number : \$B 98 071
 v2 storage number : \$B 98 072
- [3] Samuel F. Racine
Elementary accounting, 1923
 Main stack HF5635.R25
 storage number : \$B 101 791
- [4] Perry E. Mason
Elementary accounting, 1956
 Main stack HF5635.M288.1956
 Shelved off campus : B 333 288
 Frank H. Streightoff
Elementary accounting, 1928
 Main stack HF5635.S84
 storage number : \$C 42 778
- [5] Fayette H. Elwell
Elementary accounting for Colleges, 1925
 Main stack HF5635.E65
 Shelved off campus : B 333 266
 Francis E. Ross
- [6] [7]

- Elementary accounting practice set*,
1923
Main stack HF5661.R6
storage number : \$C 25 13?
- [8] John R. Wildman
Elementary accounting problems,
1914
Main stack HF5635.W45
storage number : \$B 38 525
- *?UCB92-19/introductory accountingでは 4 件
が検索された。
- [1] Donald D. Kennedy
Introductory Accounting, 1942
Main stack HF5635.K36
storage number : \$B 104 289
- [2] John A. Powelson
Introductory Accounting, 1926
Main stack HF5635.P79
storage number : \$B 98 078
- [3] George E. Husband
Introductory accounting, 1946
Main stack HF5635.H94
shelved off campus : B 332914
- [4] Robert E. Walden
*Introductory accounting: a manage-
ment approach* [by] Robert E. Walden
[and] L. Vann Seawell, 1968
Bus & Econ HF5657.W3
Storage number : \$B 78 492
- *?UCB92-26/Chubuでは 5 件が検索された。
- [1] Chubu Keizai Shimbun sha.
Bus & Econ HC462.C46
- *?UCB92-27/Wasedaでは 71 件が検索された。
- [25] *Waseda business & economics studies*
Bus & Econ HF41.W33である。
- *?UCB92-29/accountingでは 713 件が検索され
た。
- [166] William, Doyle Z.
*Accounting education : a statistical
survey*, 1967-1988
/Doyle Z. Williams.
- New York, NY : AICPA. 1989.
Bus & Econ W544 1989.
- [169] James Don Edwards ed.,
*Accounting education: problems and
prospects*,
Sarasota, FL : AAA, 1974.
Bus & Econ HF5630.A431
- *?UCB92-31/expectancyでは 1 件が検索された。
- [1] Mowrer, Orval H., 1907-
*Preparatory set (expectancy) - some
methods of measurement / by
O.H. Mowrer*
Columbus, OH : The American
Psychological Association.
Inc., 1940.
Psychological monographs, v. 52,
no. 2; whole no. 233
Educ/Psych BFI.P8 v. 52
- *?UCB92-34/present valueでは 5 件が検索され
た。
- [1] Birrer, G. Eddy.
*Present value applications for
accountants and financial planners/*
G. Eddy Birrer and Jean L. Carrica.
New York : Quorum Books,
c1990.
Bus & Econ HF5695.B53 1990
- [2] *An analysis of issued related to pre-
sent value-based measurements in
accounting.*
Norwalk, Conn : Financial
Accounting Standards Board of the
Financial Accounting Foundation,
c1990.
Financial accounting series; no. 098
- A Discussion memorandum
[Financial Accounting Standards
Board]
Bus & Econ HF5657.5.A52 1990
checked out : Due : 08/24/92
California. Office of Appropriate

Technology.

Present value:constructing asustainable future

Sacramento : The Office, 1979

Environ Dsgn NA2542.S6.C275

[4] Coe, Gigi.

Present value:constructing a sustainable future/Gigi

Coe, Office of Appropriate Technology, State of California

San Francisco : Friends of the Earth, c1979

Bancroft expfF862.55.c6

[5] Miller, Herman Phillip. 1921-

Present value of estimated lifetime earnings.

U.S.Gov't Print.Off., 1967

U.S.Bureau of the

Census. Technical paper 16

Bus & Econ HC110.I5.M52

*?UCB92-35/international investmentでは29件
が検索された。

[1] *International investment/*edited by
Peter J. Buckley.

Aldershot, Hants, England ;
Brookfield, VT., USA : E.Elgar,
c1990.

Elgar reference collection

Int'l library of critical writings in
economics;4.

Bus & Econ HG4538.I547 1990

[3] Kouri, Pentti J. K.

International Investment and interest rate linkage under flexible exchange rates/by Pentti J. K. Kouri.

Stockholm : Institute for International Economic Studies, 1976.

[Series : Seminar paper- Institute
for International Studies, University
of Stockholm;no.63]

Seminar paper [Stockholm, s

universitet. Institutet for international
ekonomi];no.63

Bus & Econ HG3881.K68

Day, Adrian, 1949-

*International investment opportunities:now and where to invest overseas successfully/by Adrian Day, 1st
Morrow ed. New York : Morrow,
1983*

Bus & Econ HG4538.D325 1983

Pomper, Claude L.

*International investment planning: an integrated approach/by Claude L. Pomper, Amsterdam; New York :
North- Holland Pub Co., ; New
York : Sole distributors for the
U.S.A. and Canada, American
Elsevier Pub. Co., 1976*

Studies in mathematical and management
economics; v.22

Bus & Econ HB31.S85 v22

withdrawn (consult with a reference
librarian)

[26] United States. Congress. Senate.
Committee on Commerce,

Science, and Transportation.
Subcommittee on Business, Trade
and Tourism.

*International Survey Act : hearing
before the subcommittee on Business,
Trade, and Tourism of the
Committee...*

Washington : U.S. G.P.O. 1981

Gov't Docs J60.I61.97th.no.23

Solnik, Bruno, H., 1944-

[28]

*International investments / Bruno
Solnik.*

Reading, MA : Addison-Wesley,
1988.

Bus & Econ HG4538.S521 1988

checked out; Due : 08/24/92

*?UCB92-36/Sakuraiでは1件が検索された。

- [1] *Japanese management accounting:a world class approach to profit management/*

Yasuhiro Monden, Michiharu Sakurai,....

Cambridge, Mass. : Productivity Press, c1989.

Sakurai, Michiharu.

Bus & Econ HF5657.4.J37 1989

*?UCB92-37/capital costでは4件が検索された。

- [1] Bechtel, Inc.
*Capital cost analysis of airport alternatives/*prepared by Bechtel Incorporated [San Francisco] : Association of Bay Area Governments, 1971.

Environ Dsgn TL726.4.S25.B4 1971

*?UCB92-38/Needles, Bでは4件の記録があった。

- [4] Rosenblatt, S. Bernard.
Modern business:a systems approach /S. Bernard Rosenblatt, Robert L. Bonnington, Belverd E. Needles, Jr. 2nd ed.

Boston : Houghton Mifflin, c1977.

Bus & Econ HF5351.R621 1977

*?UCB92-40/Evans, Tでは47名が検索され、28番目では5件の記録があった。

- [5] Evans, Thomas G.
International accounting and reporting / Thomas G. Evans, Martin E. Taylor, Oscar Holzman.

Boston, Mass. : PWS-KENT, c1988.

Bus & Econ HF5686.156 E9 1988

*?UCB92-44/Staubus, Gでは7件が検索された。

- [2] Staubus, George J.
Activity costing for decisions:cost

*accounting in the decision usefulness framework/*George J. Staubus

New York : Garland Pub., 1988.

Bus & Econ HF5686.C8.S7431

1988

*?UCB92-47/cost benefitでは61件が検索された。

- [4] Sassone, Peter G.
Cost-benefit analysis: a handbook /Peter G. Sassone and William A. Schaffer.

New York : Academic Press, 1978

[series : Operations research and industrial engineering series]

Bus & Econ HD47.S318

- [6] Gauthier, Gilles, 1941-
*Cost-benefit analysis:an extensive bibliography/*Gilles Gauthier, Francois Huppe.

Boucherville, Quebec : G. Morin, 1991

Bus & Econ HD47.5.A12.G386 1991

ON HOLD THROUGH :
08/10/92

- [19] United States. Dept. of Veterans Affairs.

Cost-benefit analysis handbook.

Washington, D.C. : Dept. of Veterans Affairs, 1989.

Gov't Docs XX89, 1163

- [49] Layard, P. R. G. [P. Richard G.]
Cost-benefit analysis:Selected readings, Harmondsworth Penguin, 1972.

[Series : Penguin education]

[Series : Penguin modern]

Moffit HD47.5.L34

*?UCB92-48/computer educationでは61件が検索された。

- [4] *Topics, computer education for colleges of education/*editor, Jean

B. Rogers.

New York, NY : Association for
Computer Machinery; Baltimore, MD
: Copies from ACM Order Dept.,
c1983.

Engineering LB1028.43.T651
1983

*?UCB92-49/DCFでは1件が検索された。

- [1] Boland, Robert G.A.
*DCF for capital investment
analysis/* [by] R.G.A. Boland and
R.M. Oxtoby
London : Hodder and Stoughton,
1975.

Bus & Econ FG4028.C4B 6271

*?UCB92-50/Quinn, Jでは34名が検索され, 6
番目では2件の記録があった。

- [1] *Managing innovation: cases from the
services industries/* Bruce R. Guile
and James Brian Quinn, editors.
Washington, D.C.; National
Academy Press, 1988.

Quinn, James Brian, 1928. Series
on technology and priorities.

Engineering HD9980.5.M343 1988

*?UCB92-53/Dean, Joelでは52名が検索され, 26
番目では6件の記録があった。

- [1] Dean, Joel, 1906-
*Capital budgeting; top-management
policy on plant, equipment, and product
development.*

New York, Columbia University
Press, 1951.

Bio Sciences HD50.D4 offcampus

Environ Dsgn HD50.D4

Main Stack HD50.D4

Bus & Econ HD50.D4 Library
has : 2 copies

Moffitt HD50.D4

- [2] Primeaux, Walter J.
Foundations of business economics:

the contributions of Joel Dean/ Walter
P. Primeaux, Jr.; assisted by
A. Karen Fortin.

Tallahassee : University Presses
of Florida : Florida State University
Press, c1984

Bus & Econ HD30.22.P741 1984

Dean, Joel, 1906-

Managerial economics.

Englewood Cliffs, N.J. : Prentice-
Hall, 1961, c1951.

Forestry HD31.D38

Main Stack HD31.D38

Bus & Econ HD31.D38

Moffitt HD31.D38

Dean, Joel, 1906-

Pricing from the seller's standpoint,

[New York] Columbia Univ., 1949

Main Stack HF5415.D4

Dean, Joel, 1906-

*The relation of cost to output for
leather belt shop,* by Joel Dean, with
a memorandum on certain problems
in the...

New York, National Bureau of
Economic Research [c194?]

Bus & Econ HF11.N274 no.2 (?)

Bus & Econ Hll.N274 no.2 (?)

Dean, Joel, 1906-

Statistical cost estimation/ Joel
Dean.

Bloomington : Indiana University
Press, c1976.

Bus & Econ HD47.D41.1976

*?UCB92-54/52名のDean, Joelの27番目は26番目
と同一人物の可能性もあり。

- [1] *The economics of strategic planning:
essays in honor of Joel Dean/* edited by
Lacy Glenn Thomas, III.

Lexington, Mass. : Lexington
Books, 1986.

- Dean, Joel, 1909
Bus & Econ HD30.22.E261 1986
Library has : 2 copies
*?UCB92-57/pollutionでは161件が検索された。
- [5] Kiraldi, Louis, 1911-
Pollution; a selected bibliography of U.S. Government publications on air, water, and land pollution.
[Kalamazoo] Western Michigan University, Institute of Public Affairs, 1971
Gov't Docs TD174.A12.K5
[55] OECD. Environment Directorate.
Pollution control costs in the primary aluminium industry/ [by] the OECD Environment Directorate and the U.S. Department...
Paris : OECD; [Washington : sold by OECD Publications Center] , 1977.
Gov't Docs TD899.M43073 1977
[67] Thomas, Vinod, 1949-
Pollution control in Sao Paulo, Brazil : cost, benefits and effects on industrial location
prepared by Vinod Thomas.
Washington, D.C. [1818 H st., N.W., Washington 20433] : World Bank, c1981
[147] *Pollution research index: a guide to world research in environmental...*
2nd ed/edited by Andrew I. Sors and ...
Harlow, Essex : F. Hodgson, 1979.
Main stack TD178.5. P64 1979
*?UCB92-60/Pollution abatementでは 8 件が検索された。
- [7] *Pollution abatement costs and expenditures*
Gov't Docs TD180.AIP6
- *?UCB92-62/discount rateでは 2 件が検索された。
- [1] Brown, Keith Cates, 1933
The discount rate and regard for the future/ by Keith C. Brown.
West Lafayette, Ind. : Institute for Research in the Behavioral, Economic and Management Sciences, Krannert Graduate School of Management, Purdue University, [1983]
Paper [Krannert Graduate School of Management. Institute for Research in the Behavioral, Economic, and Management Sciences] 830.
Bus & Econ H31.P87.P2 no.830
*?GA092-1/Life Cycle Costでは 6 件が検索された。
- [1] Department of Defense,
Life Cycle Costing Procurement Guide, (Interim), July 1970
JK1673.A5
Stock No.008- 000- 00130-8/Catalog No.D1.6/6 : 1
[2] DOD Instruction 7041.3
26, February, 1969
[3] Dell'Isola, Alphonse J. and Kirk, Stephen J.
Life Cycle Costing for Design Professionals,
N.Y : McGraw- Hill Book Co., 1981.
TH435.D4
Dell'Isola, Alphonse J.
Value Engineering in the Construction Industry
New York, N.Y : Construction Publishing Co., 1973.
TH435.D43
Malstrom, Eric M.
Manufacturing Cost Estimating-

- What Every Engineers Should Know*
New York : Marcel Dekkor, Inc.,
TS167.M34
- [6] Nevins, James L. and Whitney,
Daniel E.
*Concurrent Design of Product Pro-
cess.*
New York : McGraw- Hill Pub-
lishing Co., 1989.
TS171.C655

*?LOC92-1/Eugene L. Grant, 1897-では 5 件が
検索された。

- [1] Grant, Eugene L.
Principles of Engineering Economy
Ronald
1930, 1938, 1950, 1960, 1964, 1970,
1976, 1982, 1984, 1990
- [2] Grant, Eugene L.
Statistical Quality Control
McGraw-Hill
1952, 1972, 1988
- [3] Grant, Eugene L.
*Handbook of Industrial Engineering
and Management*
Prentice-Hall, 1971
- [4] Grant, Eugene L.
*Basic Accounting and Cost Account-
ing*
McGraw-Hill, 1956, 1964.
- [5] Grant, Eugene L.
Depreciation
Ronald, 1955.

*?LOC92-2/Engineering Economy since 1968-で
は 1 件が検索された。

- [1] American Telephone and Tele-
graph Company. Construction
Plants Department,
*Engineering Economy: a manager's
guide to economic decision making.*
New York : McGraw-Hill, 1977.

*?LOC92-6/reshelving cart上の返却図書。

- [1] American Association of Cost
Engineers, *Proceeding*, 33rd. 1989.
HD47.A197.
- [2] *Research and Development for
Defense- House Hearings.* February
1961.
U393.A5295 USGPO

第Ⅲ部 収集研究資料

- (1) カリフォルニア大学バークレイ校図書館 (The
University of California, Berkeley. Bancroft
Library, Stephens Hall, Wurster Hall and Davis
Hall, 156 pages copied)

Quinn, James B., "Budgeting for Research," in
Heyel, Carl. ed., *Handbook of Industrial Research
Management*, New York : Reinhold, 1959. UCB
Call # UC-NRLF\$B 662 624 T175.5 H4

Gordon, Robert A. and Howell, James E.,
Higher Education for Business, New York : Col-
umbia University Press, 1959. Bus & Econ
HF1131.G66. (so-called Ford Report)

Pierson, Frank C., "Review of Findings," in
Pierson, Frank C. ed., *The Education of Amer-
ican Businessmen*. New York : McGraw- Hill
Book Company, 1959. Bus & Econ HF1131.P54.
(so-called Carnegie Report, the last due date
stamp is "May 15, 1992.")

Cox, Robert G., "Accounting," in Part Three
Developing the Curriculum, Pierson Frank C.
ed., *ibid.*,

Roman, Daniel D., *Research and Development
Management: The Economics and Administration of
Technology*, New York : Appleton- Century-
Crofts, 1968, Bus & Econ Call #?

Ruegg, Rosalie T., McConaughy, Gohn T.,

Sav, G. Thomas and Hockenber, Kimblerly A., *Life-Cycle Costing: A Guide for Selecting Energy Conservation Projects for Public Buildings*, NBS Building Science Series 113, September 1978. Envi TH7.U5.no.113

Humphreys, Kenneth K., *Jelen's Cost and Optimization Engineering*, third edition, The Elsevier Engi TS167.J45.1991

North Atlantic Treaty Organization Advisory Group for Aerospace Research and Development (Organization du Traite de L'atlantique Nord), *Design to Cost and Life Cycle Cost*, AGARD Conference Proceedings No.289, Papers presented at the Flight Mechanics Panel Symposium on Design to Cost and Life Cycle Cost held in Amsterdam, Netherlands, 19- 22 May 1980. Engi TL500.N6 C6.no.289

Choi, Frederick D.S. and Mueller, Gerhard G., *An Introduction to Multinational Accounting*, Englewood Cliffs, NJ : Prentice-Hall, Inc., 1978. Bus & Econ HF5657.C543.socs

- (2) 合衆国会計検査院図書館 (U.S.General Accounting Office, Technical Library and Law Library, 71 pages copied)

Office of the Secretary of Defense. *Life Cycle Costing Procurement Guide*, (Interim), Washington, D.C. : Department of Defense, July 1973. Technical Library, General Accounting Office, Call #JK1673.A5

Nevins, James L. and Whitney, Daniel E., *Concurrent Design of Product Process*, New York : McGraw-Hill Publishing Co., 1989. Technical Library, General Accounting Office, Call # TS171.C655

Department of Defense, *Economic Analysis and Program Evaluation for Resource Management*, Department of Defense Instruction 7041.3. October 18, 1972. Law Library, General Accounting Office, Call #-

- (3) 合衆国政府印刷局販売所 (U.S.Government Printing Office Bookstore, \$ 20.00 total purchase)

Economics and Statistics Administration Office of the Chief Economists, U.S.Department of Commerce, *Foreign Direct Investment in the United States, Review and Analysis of Current Developments: A Report in Response to a Request by the U.S. Congress*. Washington, D.C. : U. S. Department of Commerce, August 1991. \$8.50

International Trade Administration, U.S.Department of Commerce, *International Financing Programs and U.S. International Economic Competitiveness*, Washington, D.C. : U. S. Department of Commerce, September 1990. \$4.50

Office of Research, Office of Educational Research and Improvement, U.S.Department of Education, *Price and Quality in Higher Education*, Washington, D.C. : U.S.Department of Education, June 1991. \$7.00

- (4) 合衆国議会図書館
(U.S.Library of Congress, 52 pages copied)

U.S.Task Force on Reducing Costs of Defense Systems Acquisition, *Report: Design-to-Cost, Commercial Practice vs. Department of Defense Practice*, Office of the Director of Defense Research and Engineering, Washington, D.C. : Department of Defense, 15 March 1973. LOC Call # UC263.U58.1973.

U.S.General Accounting Office, *Department of*

Defense:Report of Life Cycle Cost Estimating-its status and potential use in major weapon system acquisitions, Washington, D.C. : U.S.General Accounting Office, 1974. LOC Call # UC263.U54.1974.

Michaels, Jack V. and Wood, William P., *Design to Cost*, New York : Wiley, c1989. (Series

: New dimensions in engineering) LOC Call # TS167.M531.1989.

American and Telephone and Telegraph Company, Construction Plan Department, *Engineering Economy: A Manager's Guide to Economic Decision Making*, third edition, New York : McGraw-Hill Book Company, 1977. LOC Call # HE8783.A54.1977.